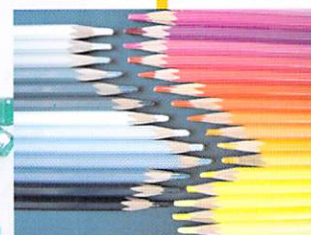


第27回 東京都中学校美術教育研究大会

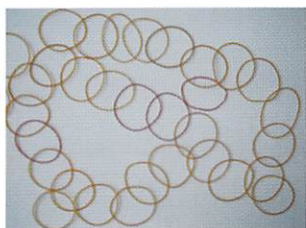
第6ブロック 葛飾大会

メッセージ
～色・形・ことばからの発信～



平成21年11月13日(金)

葛飾区立上平井中学校



大会紀要目次

あいさつ	葛飾区教育委員会教育長	山崎 喜久雄	1
	東京都中学校美術教育研究会会長	大野 雅生	2
	第27回東京都中学校美術教育研究大会実行委員長	殿村 靖廣	3
I 大会要項と内容			4
II 基調提案	大会研究局長	太田 幸司	6
III 記念講演 講師紹介	東京藝術大学名誉教授	歌田 眞介 先生	7
IV 研究授業指導案			
■研究授業 1	時代を映す美術 (アートカードを用いた鑑賞)		
	葛飾区立中川中学校	岩本 さつき	
	東京国立近代美術館 主任研究員	一條 彰子	8
■研究授業 2	立体切り画 メタモルフォーゼ		
	江戸川区立松江第一中学校	岡田 卓也	10
■研究授業 3	言葉から形へ、形から言葉へ		
	墨田区立両国中学校	清水 隆一	12
■研究授業 4	メッセージ・アート ～思いを込めよう・伝えよう～		
	江東区立第二南砂中学校	楠本 玲子	14
V 誌上発表指導案			
■誌上発表 1	歩く広告 (モダンテクニックを使った手提げ紙袋デザイン)		
	墨田区立文花中学校	深見 響子	16
■誌上発表 2	「夢」ということばからの発想		
	墨田区立向島中学校	奥井 伸	18
■誌上発表 3	色について話し合おう		
	江東区立深川第四中学校	坂東 由香里	20
■誌上発表 4	16色の平面構成 ～イメージする色を作る、塗る～		
	江東区立東陽中学校	鶴田 将志	22
■誌上発表 5	私の箱		
	江東区立深川第一中学校	二階堂 洋子	24
■誌上発表 6	曲線が奏でる優雅な形体		
	葛飾区立綾瀬中学校	尾花 賢一	26
■誌上発表 7	名画に親しむ「名画カルタ」		
	葛飾区立大道中学校	五月女 和代	28
■誌上発表 8	お菓子箱のパッケージデザイン (新商品の開発)		
	葛飾区立葛美中学校	田中 幸司	30
■誌上発表 9	不思議な立体をつくろう! ～二つのメッセージ～		
	葛飾区立立石中学校	太田 幸司	32
■誌上発表 10	伝える形・文字・言葉		
	江戸川区立葛西第二中学校	大平 新作	34
■誌上発表 11	『かたちをデザインする指導方法の工夫』		
	江戸川区立瑞江中学校	畠山 敦	36
■誌上発表 12	名画の空間を視る (名画のペーパーレリーフ)		
	江戸川区立小岩第一中学校	矢野 芳幸	38
■誌上発表 13	色・形態のもつ抽象概念を自画像にもりこむ		
	江戸川区立小岩第五中学校	鳥居 カヨ子	40
VI あとがき	大会副実行委員長	菊田 寛	42
VII 大会運営組織一覧			43
VIII 都中美研究大会開催地一覧			45

あいさつ

葛飾区教育委員会教育長
山崎 喜久雄



平成21年度第27回東京都中学校美術教育研究大会第6ブロック葛飾大会が、～色・形・ことばからの発信～をテーマに掲げ、葛飾区立上平井中学校を会場として盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。今回は、色彩と形にことばを絡ませたユニークな研究テーマであり、どのような研究発表になるのか、楽しみにしております。

さて、平成20年3月に改訂された学習指導要領では、中学校の美術科の目標に「美術文化についての理解を深め」という記述が付け加えられました。これは、今回の学習指導要領改訂における改善事項の一つに「伝統や文化に関する教育の充実」が挙げられており、美術科においては、我が国の美術文化についての指導を充実して、これらの継承と創造への関心を高めることが重要であるとされています。

また、各教科を通じて「言語活動の充実」を行っていくことも今回の重要な改善事項であります。そのためには、国語の教師以外であっても言語活動の重要性を認識し、各教科の指導計画の中にそのことを意識的に位置付けて、授業の構成や進め方を再構築していく必要があります。そうしたことからしますと、今回の研究テーマは、まさに今日求められている課題そのものであり、今後の授業改善に向けた大きな試金石になるものと思います。

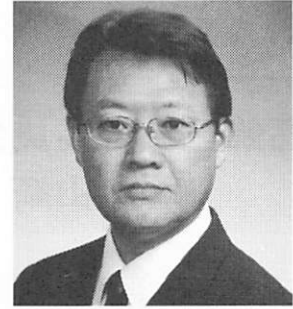
ところで、上田正樹が歌った「悲しい色やね」という歌がありましたが、色は人間の感情に訴えかけるものがあります。つまり、色は、気持ちを勢いづけたり落ち着かせたり、心に安らぎやうるおいをもたらせたりと、さまざまな影響を与えます。色には心を動かす何か不思議な力があるのです。そのようなことから、「色彩検定」という資格制度ができて、カラーコーディネーターと呼ばれる職業が生まれました。カラーコーディネーターは、企業の色彩戦略や商品開発、建築インテリアなどで、色彩計画や色に関するアドバイスの仕事をしています。

昔から、日本人は、色に対する関心が高く、繊細な感性を生かして、類似の色であってもこれを見分ける独特の「色文化」を創り上げてきました。そうした日本人に備わっている感性をDNAに刻み込んで後世に伝えていくためには、子どもたちの色彩感覚を磨いていくことが大切です。今後、都中美の先生方の研究が、学校現場の実践に生かされて、子どもたちの豊かな情操の育成につながっていくことを期待するものであります。

結びに、本研究大会を開催するにあたり、ご尽力いただいた本研究会会長の 大野雅生 校長先生、実行委員長の 殿村靖廣 校長先生をはじめ、熱心に取り組まれた諸先生方に心から感謝を申し上げ、挨拶といたします。

あいさつ

東京都中学校美術教育研究会 会長
大野 雅生



平成21年度第27回東京都中学校美術教育研究大会第6ブロック葛飾大会の開催にあたり一言ご挨拶申し上げます。

学習指導要領が改訂され、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視し「生きる力」を育むことがますます重要であるとされました。私たちはかねてより「生きる力」の育成には学校教育の中で美術を学ぶことが欠かせないものであると常に訴えてきました。

今、現代社会の中で一番課題となっているのは「心」の育成ではないかと思えます。それは、不安定な社会情勢の中で、子供のみならず大人の心の不安定さも社会問題化し、様々な心を痛める事件につながっている現状があるからです。このことは心の育成を進める抜本的な取り組みが必要になってきたことを表していると考えています。このような現状だからこそ、美術教育の大切さをもう一度再認識し、私たち自身が美術の持つ豊かな力を多くの方々に知ってもらえるように活動していく必要があると考えています。

今年度、本研究会では様々な研修に取り組んでまいりました。美術教師の配置についても厳しい現状の中、まず美術教師同士のつながりを強くしていく必要があることを実感しました。そして、美術科としての主張を常に発信するためにも、研修を積み指導力を高めることが必要と考えています。今回開催する葛飾大会はまさにその意味でも、重要で貴重な大会であると考えています。

私たちは子供たちに美術を学ばせたいと考えています。美の意識は、良いものにふれる環境が大切だと考えます。たとえば生活の中の造形や美術のよさや美しさを感じ取る力は、自然に備わっている力だけではなく、やはり美術の授業の中で育てていくものだと考えます。自分の思いを伝える表現力、他人の思いを感じ取る感性、形や色などに対するコミュニケーション能力、それらを美意識という共通項で見えていくことができる力をつけさせたいと考えています。

美術教育が基本的な人としての資質の成長に大きく影響していることをあらためて感じます。

毎年継続して開催されている本研究大会ですが、今回の大会では、「メッセージ ～色・形・ことばからの発信～」というテーマを掲げ、生徒が生き生きと造形活動に取り組み、自らの感性を磨き、生涯にわたって美術を愛好する心情や豊かな情操を培うことを目的に研究に取り組んだ成果が発表されます。この研究大会が本会員をはじめ美術教育に携わる方々への示唆になることを期待しております。あわせて、第6ブロックの各美術教育研究会のみなさんの大会開催に向けた情熱と精力的な取り組みに敬意を表します。

本研究大会開催にあたり、墨田区、江東区、葛飾区、江戸川区の教育委員会をはじめ中学校長会、教育研究会、各関係機関にはご支援を賜り誠にありがとうございました。また、葛飾区立上平井中学校の校長先生はじめ教職員の皆様には、会場校として多大なご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

あいさつ

第27回東京都中学校美術教育研究大会 大会実行委員長 殿村 靖廣



この度、6ブロック4区が一体となり、葛飾区を会場として第27回東京都中学校美術教育研究大会が開催されるはこびとなりました。

平成24年度からの新学習指導要領の完全実施に向けて本年度より移行期間に入り、各教科・領域では内容の実施又は一部が実施されておりますが、本大会が、これからの美術教育の方向性を示すとともに、新学習指導要領の完全実施に向けて各学校が取り組んでいくための道標になる大会とすべく、あらためてその重責を実感しているところであります。

新学習指導要領では、全教科領域で「言語活動」の充実が示されています。美術科においては「美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める」ことが指導要領の目標に新たに盛り込まれ、「表現」「鑑賞」の領域では、「自分で感じ取ったことや考えたことなどを基に、自分が発想することを重視していくこと」が強調されています。また、共通項目として、「形や色彩による表現などの技能を身につけること」が新設されました。また、「美術作品のよさや美しさを感じ取り味わう」ことも新しく表記され、表現や鑑賞活動の充実が強く求められています。そのような目標の達成を目指し、生徒が生涯にわたって美術を愛好する心情や豊かな情操を培うためには、美術教育において教員は更なる創意工夫と指導技術を高めていかなければなりません。そして、前回の改訂から現場で取り組んできた実践が、「新学習指導要領の趣旨を生かしていくことができるのか？」また、「どのような指導を展開することで対応ができるのか？」等、について再確認していくことが重要になると考えています。

今回の大会では、第6ブロックの4区、91校で行っている実践を新学習指導要領に照らし掘り下げ、各学校で対応していくことができる指導の在り方を発信していきたいと思っております。そして、授業の工夫・改善について、都内全ての美術科教員と共に考え、共に意見を交換することで美術教育の方向性と美術科教員の資質の向上を図っていく実践的な大会にしていきたいと考えています。

このような考え方を基に、本大会のテーマを新学習指導要領の実施に絡め、「メッセージ～色・形・ことばからの発信～」としました。これは、各教科領域に共通するキーワードとなる「言語活動」を、「ことば」や「文字」として置き換え、造形活動においてどのような活用方法があるのか、そして、ことばを使った表現活動の具体的な指導を通して、表現力・創造力を高めていくことを一つの視点としています。また、形や色彩による表現などの技能を身につけさせていくための指導として、「色」と「形」のキーワードを授業内に意図的に取り入れ、活用していくことを二つめの視点としました。形や色彩、材料などの性質や、それがもたらす感情を理解したり、対象のイメージを捉えたりするなどの資質や能力が育成されることで、生徒が生き生きと造形活動に取り組み、感性を養い、美術文化を理解し、未来を創造する力を生みだしていくことに繋がるものと信じています。

最後になりましたが、本大会を通して、今後の美術教育の方向付けをしていただきます文部科学省初等中等教育局教育課程課の村上尚徳教科調査官をはじめ、各分科会の助言者の先生方、また、数多くの絵画修復の視点から美術教育をとらえた貴重なご講演を頂戴いたします東京藝術大学名誉教授の歌田真介先生、並びに多大なご支援をいただきました東京都教育委員会、葛飾区・墨田区・江戸川区・江東区の各教育委員会、東京都中学校長会、葛飾区中学校長会ほか、関係の皆様方に御礼を申し上げ挨拶いたします。

I 大会要項と内容

- 1 テーマ メッセージ ～ 色・形・ことば からの発信 ～
- 2 開催日 平成21年11月13日（金）
- 3 会 場 葛飾区立上平井中学校
葛飾区東新小岩4-2-1 Tel: 03-3692-8114
- 4 主 催 東京都中学校美術教育研究会
会 長 大野 雅生 （西東京市立ひばりが丘中学校校長）
- 5 後 援 東京都教育委員会 墨田区教育委員会 江東区教育委員会
葛飾区教育委員会 江戸川区教育委員会 東京都中学校校長会
東京都中学校教育研究会 葛飾区中学校校長会
東京都中学校文化連盟 葛飾区中学校教育研究会

6 日 程

11:15	11:45	12:35	13:25	14:25	15:25	16:00	16:50
受 付	ワーク ショップ	昼食 展示作品鑑賞	研究授業 1～4	研究授業 協議会 1～4	全体会 講評	記念講演	
	体育館	体育館	各教室	各教室	体育館	体育館	

7 ワークショップ及び作品展示 11:45～13:25

- 体育館にて、「アートカード」（東京国立近代美術館作成）及び第6ブロック各区の生徒作品を展示。

8 公開研究授業1～4 13:25～14:15

- 研究授業1（学級：2年1組 会場：3階 図書室）
発表者 葛飾区立中川中学校 岩本 さつき
東京国立近代美術館 主任研究員 一條 彰子
- 研究授業2（学級：2年2組 会場：3階 2年2組教室）
発表者 江戸川区立松江第一中学校 岡田 卓也
- 研究授業3（学級：2年3組 会場：3階 美術室）
発表者 墨田区立両国中学校 清水 隆一
- 研究授業4（学級：2年4組 会場：2階 被服室）
発表者 江東区立第二南砂中学校 楠本 玲子

9 研究授業協議会 1～4 14:25～15:15

- 協議会 1 (会場: 3階 図書室)
助言者 稲城市立第二中学校校長 安藤 聖子 先生
- 協議会 2 (会場: 3階 視聴覚室)
助言者 町田市立薬師中学校校長 篠原 やよい 先生
- 協議会 3 (会場: 3階 美術室)
助言者 世田谷区立深沢中学校校長 野崎 裕一郎 先生
- 協議会 4 (会場: 2階 被服室)
助言者 新宿区立牛込第三中学校校長 沼田 浩紫 先生

10 全体会 15:25～16:50

- (1) 開会の言葉
- (2) 主催者挨拶 東京都中学校美術教育研究会会長
西東京市立ひばりが丘中学校校長 大野 雅生
- (3) 実行委員長挨拶 大会実行委員長 葛飾区立上平井中学校校長 殿村 靖廣
- (4) 来賓祝辞 葛飾区教育委員会教育長 山崎 喜久雄 先生
東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課
指導主事 和田 栄治 先生
- (5) 来賓紹介
- (6) 基調提案 大会研究局長 葛飾区立立石中学校 主幹教諭 太田 幸司
- (7) 講評 国立教育政策研究所教育課程センター研究開発部
教育課程調査官 奥村 高明 先生
- (8) 記念講演 テーマ「油絵の科学的調査と修復」
講師 東京藝術大学名誉教授 歌田 眞介 先生
- (9) 謝辞 大会副実行委員長 墨田区立吾嬬第二中学校校長 菊田 寛
- (10) 次会大会実行委員長挨拶 荒川区立第七中学校校長 藤崎 勝 先生
- (11) 閉会の言葉

11 誌上発表者指導案展示

- 発表者 1 墨田区立文花中学校 深見 響子
- 発表者 2 墨田区立向島中学校 奥井 伸
- 発表者 3 江東区立深川第四中学校 坂東 由香里
- 発表者 4 江東区立東陽中学校 鶴田 将志
- 発表者 5 江東区立深川第一中学校 二階堂 洋子
- 発表者 6 葛飾区立綾瀬中学校 尾花 賢一
- 発表者 7 葛飾区立大道中学校 五月女 和代
- 発表者 8 葛飾区立葛美中学校 田中 幸司
- 発表者 9 葛飾区立立石中学校 太田 幸司
- 発表者 10 江戸川区立葛西第二中学校 大平 真作
- 発表者 11 江戸川区立瑞江中学校 畠山 敦
- 発表者 12 江戸川区立小岩第一中学校 矢野 芳幸
- 発表者 13 江戸川区立小岩第五中学校 鳥居 カヨ子

Ⅱ 基調提案

メッセージ

～色・形・ことばからの発信～

大会研究局長 葛飾区立立石中学校 太田 幸司

研究主題のとらえ方

今回の学習指導要領の改訂には、全国学力・学習状況調査の実施やその結果報告、各種制度の改変など、社会的要請を受け国民の教育に対する期待の大きさを感じることができます。そして、その内容については、全教科領域で「生きる力」を引き続き基本理念とし、「言語活動に関する能力が、全ての学習基盤になること」や、「体験的な活動を通して他者や環境と関わり、共に生きる力をはぐくむこと」、「伝統や文化に関する教育の充実」など、多くの具体的な改善内容を挙げています。

美術科においては「美術文化に対する関心を高める」ことが指導要領の目標に盛り込まれ、「形や色彩による表現などの技能を身につけること」が強調されました。また、「美術作品のよさや美しさを感じ取り味わう」ことも新しく表記され、表現や鑑賞活動の充実が求められています。

今大会では、新学習指導要領に示されている、各教科領域に共通する「言語活動」を、「ことば」に置き換え、美術科の「造形活動」においてどのように具現化した指導に結びつけるかということの一つの視点としてとらえました。また、「色彩や形による表現などの技能を身につけること」から、色と形の指導を二つ目の視点としてとらえ、これらの視点をキーワードにした授業を実践して研究を深めることにしました。そこで、本大会の研究主題を、「～色・形・ことばからの発信～」とし、これまで、前回の改訂を受けてから、各中学校が今まで授業で実践してきた取り組みが、新学習指導要領の中で、どのような位置づけとなるのか検証し、これからの美術教育の方向性を発信していきたいと考えています。

言語活動の言語とは、「人々が意味・感情・意志・考えなどを伝える音声・文字に表したものと定義されています。この伝達方法である音声は、「話す・聞く」といった直接的なコミュニケーションの手段になり、文字は、「読む・書く」といった間接的なコミュニケーション手段にあたります。研究主題にある「ことば」とは、この二つの意味合いを持ったコミュニケーションツールとしてだけではなく、表現及び鑑賞の各活動において、共通に必要な資質や能力を指す「共通事項」を育成するための重要な要素の一つとしてとらえています。つまり、「ことばでは言い表せない感動」や「大切なものは目に見えない」などと言われるように、「ことば」そのものを視覚化したりするなど、表現の手段にもなり得るものと考えます。そして、「ことば」を何かに置き換えるのではなく、「表現」や「鑑賞」をことばに置き換えるのでもなく、それらが、それぞれの意味をもち、相互に影響し合い、高め合う存在として、表現しきれないものを実体化させていくことが、これからの美術教育で必要になってきます。

「色・形」においても、表現活動において、自分の心情や考え、イメージを基に自分の表現方法で実体化していく上で不可欠なものとして位置づけていくことができます。「色彩や形による表現などの技能を身につけること」「美術作品のよさや美しさを感じ取り味わう」の能力・感性を育て、自らの意図に応じて創意工夫し、美しく表現する能力を高めていく視点から見たとき「色・形・ことば」は、その意味で等価であり、あらゆる場面で活かしていく必要があります。

今大会ではこれらの重要性をあらためて認識し、今までの取り組みを見つめ直し、深め、新しい試みのツールなどを加えた実践的な研究にしたいと考えています。大会を通して美術教師一人ひとりが次代を見据え、多様な価値観に対応した指導技術を身につけることができるようになることを期待しています。そして、生徒が生き生きと造形活動に取り組み、表現活動や鑑賞活動で、作品を通して表現のよさや個性などを認め合い尊重し合う態度を育てたり、作品から感じた思いや考えを発表や議論をしたり、美術の学びを深めることにつなげていきたいと考えています。

Ⅲ 記念講演

テーマ 油絵の科学的調査と修復



歌田真介先生

うただ・しんすけ

■ 講師紹介

■ 1934年生まれ。1959年、東京藝術大学美術学部油画科卒業。61年、同大学同学部油画専攻科修了。同学部絵画科絵画組成研究室副手、同助手、すいどーばた美術学院講師を経て、72年、創形美術学校修復研究室室長に就任。79年、同修復研究所と改称、所長に就任。95年、東京藝術大学文化財保存学保存修復(油画)研究室教授。98年より同大学大学美術館館長を兼任。2002年、退官。同年より同大学名誉教授、愛知県立芸術大学客員教授。明治美術学会理事、日本美術家連盟資材顧問。

■ 30年にわたり、幕末・明治の洋画家、高橋由一の技法の解明に取り組み、油絵作品約40点を科学的に調査してきた。編著に『高橋由一 油画の研究』(中央公論美術出版)が、主な共著に『明治前期油画基礎資料集成』(中央公論美術出版)、『日本の近代美術 1 油彩画の開拓者』(大月書店)などがある。

IV 研究授業指導案

葛飾区立中川中学校

■研究授業 1

1 研究主題 時代を映す美術（アートカードを用いた鑑賞）

2 提案者 葛飾区立中川中学校 教諭 岩本 さつき
東京国立近代美術館 主任研究員 一條 彰子

3 テーマと題材の関わり（題材設定の理由）

美術を一つのコミュニケーションツールとして考え、直感的な印象を言葉にして共有する体験をさせたいと考え、この単元を設定した。「色・形・言葉」が相互に関連し合うゲームを通して、美術作品に対する鑑賞をより深めると同時に、お互いの考えを理解し合おうとする姿勢を育てていけるよう支援したい。

4 学習の目標

- (1) ゲームを通して多くの作品に触れ、作品のもつ雰囲気や要素に気づき、それを楽しむ。
- (2) 美術作品の鑑賞に親しむ態度を育て、よいもの、美しいものに対する感動を深めるとともに、感動を共有し合うことを学ぶ。

5 評価の観点（本時）

(1) 関心・意欲・態度

- ① 美術作品の鑑賞に親しみ、作品のよさに気づき、味わう喜びを知ることができる。

(2) 鑑賞の能力

- ① 自分が感じたことを他人に伝え、自分とは異なる見方があることを知ることができる。



6 学習活動（2/全2時間）

時間	指導内容
1/2	2種類のゲームを通してアートカードに親しむ。
2/2	ゲームの後、実際の展示の様子をスライドで観る。(本時)

(1) 用具・準備

- ① 教材 アートカード 鑑賞プリント
- ② 道具 筆記用具
- ③ その他 プロジェクタ スクリーン

(2) 展開

学習の流れ	学習活動	指導上の留意事項
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・アートカードを机の上に広げる。 ・前回の内容を振り返り、ゲームで使ったカードや、印象に残ったカードを確認しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品についての説明などはせず、図柄から生徒が受ける印象を自由に広げさせる。 ・画面から受ける印象については自由な発言を促し、後のヒントにさせる。
展開 (35分)	<ol style="list-style-type: none"> ①仲間探しゲーム カードの中から2枚選び、組み合わせの理由を説明する。 ②セリフ当てゲーム 人物・動物などが描かれているカードを1枚選び、画面に相応しいセリフを考えて当てはめる。 ③スライドで作品を鑑賞し、実際の展示の様子を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集中できるように短く時間を区切り、ゲームのルールはその都度説明する。 ・モチーフに込められた意味を探り、自分なりに読み解くよう促す。 ・カードを見ながら作品の意味を考え、使われているモチーフや制作背景、物語性まで意識させるようにする。 ・自由な発想と共に、他人の感性や考えを受容する姿勢を促す。 <p>(T2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の大きさや細部など、カードからは分からない部分を補足しながら解説していく。
まとめ (10分)	<ol style="list-style-type: none"> ④カードを片付ける。 ⑤プリントを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一番気に入ったカードを一つ選び、簡単な感想を書く。 ・自分のゲーム結果だけでなく、他人の考えでも面白いと感じたものは書いておくように声をかける。

■研究授業 2

1 研究主題 立体切り画 メタモルフォーゼ <全2時間>

2 提案者 江戸川区立松江第一中学校 教諭 岡田 卓也

3 テーマと題材の関わり（題材設定の理由）

新学習指導要領では、「A表現」が発想や構想に関する項目と、表現の技能に関する項目に分けて示された。表現形式を問わず、発想・構想の深まりが表現に反映されるような指導の工夫が求められている。

そこで本題材では、「かたち」の扱いを主題に、絵画・彫刻・デザインを越えて広く発想されている「変化・変容」を題材とした。単に「かたち」の創造を目指すのではなく、「何を」変化・変容させるか、テーマを深め、発想・構想の深まりがそのまま表現として生きるような課題を設定した。

また「変化・変容」は、美術の伝統的なテーマであるとともに、中学生の知的好奇心を喚起し、驚きと面白みを持って制作にあたれる課題であると思い、提案した。

4 学習の目標

- (1) 変化・変容の面白みを味わい、独創的なテーマを選択・設定する。
- (2) 立体切り画の魅力と特性を理解し、変化・変容を形として表現する。

5 評価の観点

- (1) 関心・意欲 … 意欲的に制作に取り組めた。(授業観察・定期考査)
- (2) 発想・構想 … 変化・変容について理解し、独創的なテーマを選択・設定できた。(作品)
- (3) 技能・表現 … 立体切り画の特性をつかみ、形として表現する。(作品)
- (4) 鑑賞・理解 … 変化・変容の面白みを感じることができた。(作品・定期考査)
立体切り画の魅力味わえた。(作品・定期考査)

6 学習活動(全2時間)

第1時 題材の設定、下絵の作成

第2時 立体切り画の制作(本時)

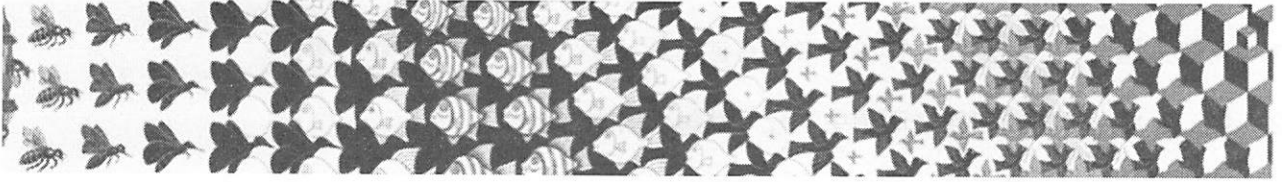
(1) 用具・準備

- ① 材料 B4両面色画用紙 色画用紙
- ② 道具 カッター カッターマット 30cm定規 サインペン 鉛筆
- ③ その他 参考作品・図版

(2) 展開

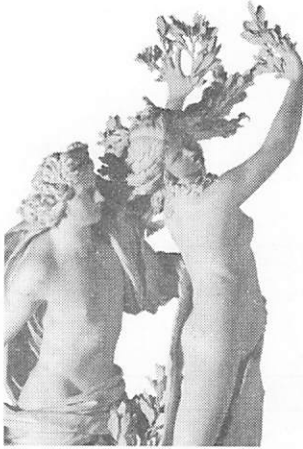
学習の流れ	学習活動	指導上の留意事項
導入	前時の確認 参考作品・図版の鑑賞。 変化・変容についての題材の確認。 作品進捗の確認。	・前時に使用した図版を提示し、内容を思い起こさせる。 ・生徒作品を提示し、感心・意欲を高める。
展開	切り込み 両面色画用紙の外形(正三角形)を切り出し、折り目に切り込みを入れる。 切り抜き 下絵の線をカッターで切り抜き、反対側に折り返して立体切り画を完成させる。	・外形の切り出しは定規の裏を用い、切り込みはカッターの刃の裏を使う。 ・カッターの扱いに注意し、切れ味の悪い物は教員が刃を折る。
まとめ	片付け・まとめ 用具を片付け、作品を机の上に置く。 感想カードに感想をまとめる。	・用具の数の確認。 ・作品を各自の机の上に置き、時間があれば、鑑賞の時間を取る。

【メタモルフォーゼの作品例】



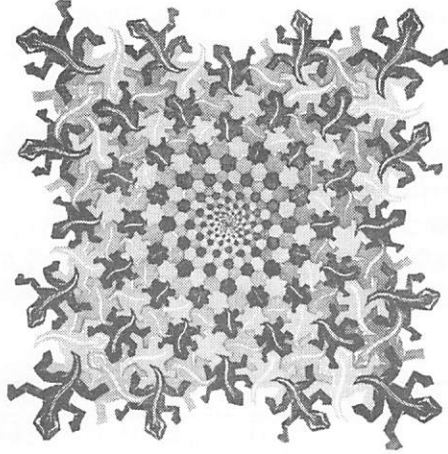
M.C.エッシャー 《メタモルフォーゼⅡ》木版画 1939-40年

彫刻「ダフネ→月桂樹」



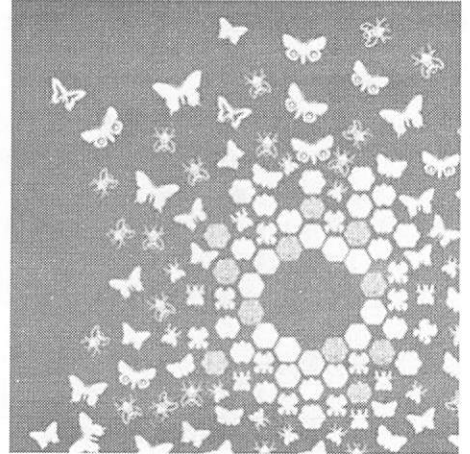
ベルニーニ 1625年

版画「幾何形態→トカゲ」



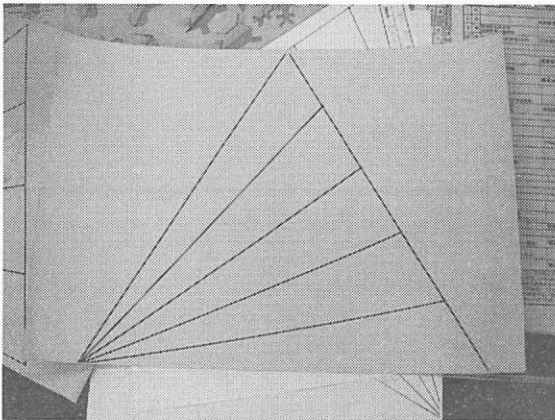
M.C.エッシャー 1939年

デザイン「幾何形態→蜂と蝶」

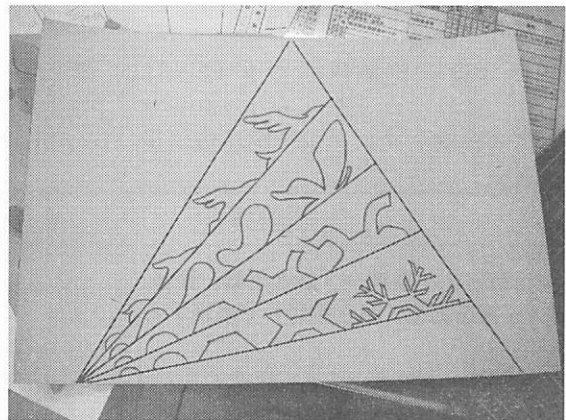


absolute zero degrees 2001年

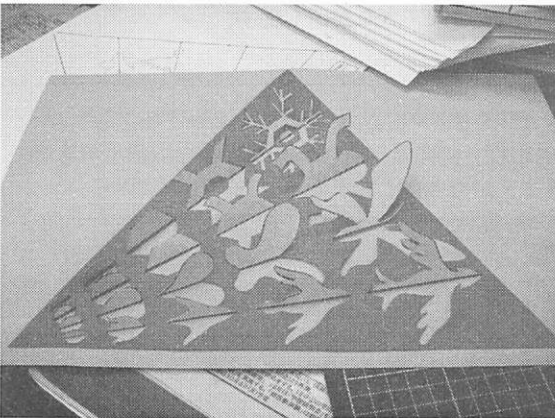
【制作手順】



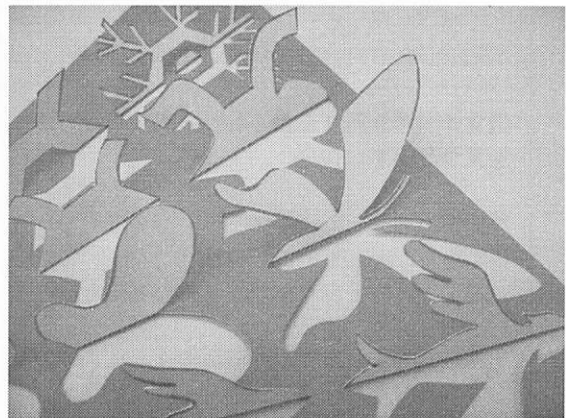
両面色画用紙を用意



テーマを設定し、下絵を描く



カッターで切り出し、折り返す



最後の形はできるだけ大きく、細かく作る

■研究授業 3

1 研究主題 言葉から形へ、形から言葉へ 発想・構想の能力に関わる題材

2 提案者 墨田区立両国中学校 教諭 清水 隆一

3 テーマと題材の関わり（題材設定の理由）

「色・形・ことばからの発信」というテーマに沿って、造形表現と言語の関係について生徒が自ら考え、制作と鑑賞の繰り返しから気づくような授業を試みた。色彩や形に思いを巡らせ意識して造形的な発想をすることは、中学生にとって普段の生活にはない特別な思考法だと思う。ここでは言葉と「形や色彩」の関係に気づかせ、造形的な発想方法の理解へ導くトレーニングの第一歩としたい。

4 学習の目標

(1) 造形表現の方法や要点に気づく

美術表現の基礎になる「形や色彩」を使って表現しコミュニケーションするという考え方を知り、言語表現と違う造形表現の方法や特性について考える。

(2) 「言葉」と「形や色彩」の関係に気づく

言葉を造形的に「形や色彩」で表現し、「形や色彩」で表現されたものから言葉で表すという体験を通じて、言語と造形相互の関係を知り、美術的な発想方法について考える。

5 評価の観点

美術への関心・意欲・態度 関	発想・構想の能力 発
① 意欲的に制作に取り組む。	① 言葉から形と色彩をつくりだす。
② 作品を提出し発表する。	② 制作されたものを言葉で表す。
③ 他の生徒の作品を鑑賞し学ぶ。	③ 言語と造形の関係に気づく。

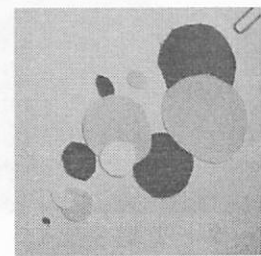
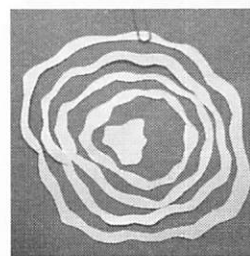
6 学習活動 〈全1時間〉

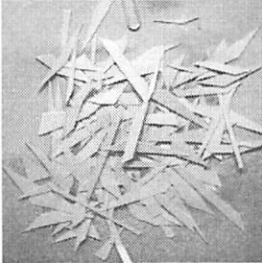
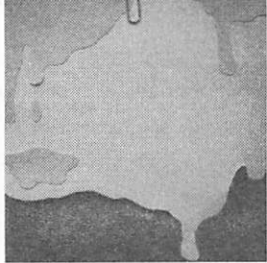

(1) 用具・準備

- ① 材料 色画用紙 12 × 12 cm に切ったカード (24 色)
- ② 道具 カッター・カッターマット・はさみ・のり・コンパス・定規など
- ③ 教室 ワンタッチ掲示板 (黒ラシャ紙とゼムクリップで自作)

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点
導入	制作 1 言葉→「形と色彩」変換 擬態語を「形と色彩」で表現する。10分 課題：擬態語「ふわふわ」を表現する。 制作の方法：24色の正方形カードから1枚選んで切り抜き、もう一枚のカードにのり付けて制作し掲示する。 ・完成したら自分で掲示する。(裏に記名)	関C ：制作できない生徒には「ふわふわ」したものを思い浮かべて手がかりにさせる。 発A ：形の操作に工夫がある。 発C ：言語へのこだわりから文字を使って表現する生徒には文字の「形や色彩」の工夫を求める。 関C ：できたが掲示できない生徒には提出掲示して表現する大切さを説明し促す。
	鑑賞 1 擬態語「ふわふわ」を表現した方法を見つけ出す。10分 課題：似ているものを探そう 掲示物から共通点と相違点に注目して、「ふわふわ」の造形表現を整理し多様な表現方法があることに気づく。 ・黒板に掲示した作品の前に集まって、鑑賞して気づいたことを発表する。	発A ：形や色彩の工夫を見つけて発表する。 ・「ことば」から「形や色彩」に多様な方法で置き換えることができたことを認めて次の制作に入る。



<p>展開</p>	<p>制作2 言葉→「形や色彩」変換 好きな擬態語で表現する。10分</p> <p>課題：好きな擬態語を選び課題1の方法で制作し掲示する。 (裏に記名と擬態語記入)</p>	<p>発C：具体的な事物や記号で表現したい生徒には「形と色彩」の工夫を忘れないように指示する。擬声語など擬態語からはずれた制作も許容する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <p>制作例A</p> <p>制作例B</p> </div>
	<p>鑑賞2 「形や色彩」→言葉変換10分</p> <p>課題：カードが表す擬態語は何か？ カードが表す擬態語を想像して発表する。 最後に制作者にも発表してもらおう。 ・黒板に掲示した作品の前に集まって、鑑賞して気づいたことを発表する。</p>	<p>発A：形や色彩から言葉を感じて発表する ・鑑賞1で言葉→「形や色彩」の変換方法の多様性に気づき、ここでは「形や色彩」→言葉の変換も、また多様であることを知る。(制作者の意図が正解というわけではないことに注意)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>・ザワザワ ・ボサボサ ・チクチク ・トゲトゲ ・ガサガサ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>・トロトロ ・ダラダラ ・ユルユル ・タラリタラリ ・ポタポタ</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <p>Aの擬態語</p> <p>Bの擬態語</p> </div>
<p>まとめ</p>	<p>まとめ 教師が学習を整理し「造形活動で意識してすること」を確認して定着を図る。</p> <hr/> <p>最終問題：マンガの吹き出しの「形と言葉」の関係を見よう。 ・生徒にとって身近なマンガの表現に使用される「吹き出し」の形と言葉との関係を考える。</p> <div style="text-align: center;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ● 言葉から「形や色彩」を生み出すことができた。 ● 造形表現から言葉にすることもできた。 ● ただし、その関係は一対一に対応する関係ではなく、多様な関係になる。 ● 人間は言葉で考えたり伝えたりするが「形や色彩」でも同じようなことができるかもしれない。 <hr/> <p>・普段から言葉だけでなく「形や色彩」から感じ考えていることに気づかせる。</p>

■研究授業 4

1 研究主題 メッセージ・アート ～思いを込めよう・伝えよう～

2 提案者 江東区立第二南砂中学校 教諭 楠本 玲子

3 テーマと題材の関わり（題材設定の理由）

◇自分の思いを作品に込めて、相手に伝える。

我々は生活の中で、ものごとを“伝えることの大切さ”を実感し、その必要性を再認識することが多くあるだろう。お互いの意思を伝達するからこそ、そこに関係が築かれ、相互理解（伝える・受けとめる）が生まれる。それに対して、自分の思いや意思を伝えなければ、伝えたいものや伝えなければいけないものを、相手に伝えられない、受けとめてもらえないということになってしまう。

美術においても同様である。自分なりの思いや意思を作品に込めて、相手に伝えてこそ表現が成り立ち、お互いの表現を認め合う関係が生まれる。単に“作品を作る”だけの目的とは異なり、伝える対象（自分や相手）がいて、そこに自分の思いを発信するという目的があってはじめて、造形活動の価値が見出されるのではないだろうか。

“表現できた”“伝えることができた”という達成感を一人ひとりに味わわせ、ものごとに取り組むための自信へとつなげていきたい。そして、表現することの喜びを与えることで、子どもたちの自己実現を目ざしたい。さらに、お互いのよさを認め合うことで、よりよい人間関係を築いていくことのできる豊かな人間性を、美術科として育み、その役割を果たしていきたい。

◇教材の視点

○制作における課題

- ・具体的なものやかたちを絵に表すことは、観察力や描写力などが伴うため、個人差が生じることが予想される。
- ・描く（表現する）ことに、抵抗感や自信がないなどの苦手意識のある生徒は、そのことが意欲の低下の要因となっていることがある。
- ・個々の表現を引き出し、尊重することができて、かつ、それぞれが興味をもって取り組むことのできる制作であること。

○課題に対するアプローチ

- ・“一人一人の表現を生かすこと” → “全員が表現できる（取り組めること）” を条件とする。
- ・本題材では、ことばを①コミュニケーションツールと②描画ツールとして用いる。
例) ①ありがとう→言語、情報内容など
 ②ありがとう→あ、り、が、と、う 文字(記号)として画面構成のための描画ツールとして用いる。
※②に関しては、視覚的には記号の羅列にすぎないが、ここで用いる文字は、言葉を説明するために字を書くのではなく、言葉から得るイメージや感情を少しでも膨らませて、作品に取り入れさせるために描くものである。
- ・制作の中できっかけ（手立て）と単純なルールを与えることで、表現方法の一部に統一性をもたせる。全員を同じスタートラインに立たせることで、イメージすることや描くことに抵抗を感じる生徒も、取り組みやすい題材としてとらえることができるのではないかと考えた。

4 学習の目標

- (1) 自分なりの表現を大切にしながら制作に取り組む。
- (2) 言葉に対する自分の思いや感情を、色と形で工夫して表現する。
- (3) 完成した作品を鑑賞して、自分の思いや表現意図を説明して伝える。

5 評価の観点

《美術への関心・意欲・態度》 言葉へのイメージを大切に、表現することに関心を持ち、意欲的に制作に取り組むことができる。

《発想や構想の能力》 言葉へのイメージを、自分なりに色と形で工夫して表現することができる。

《創造的な技能》 言葉から感じ取ることのできるイメージを、色と形で構成することができる。

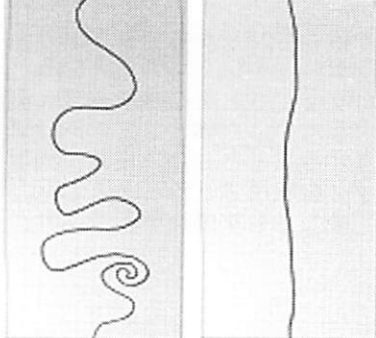
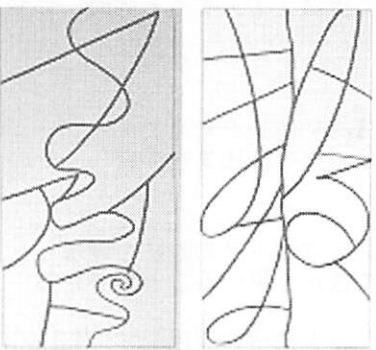
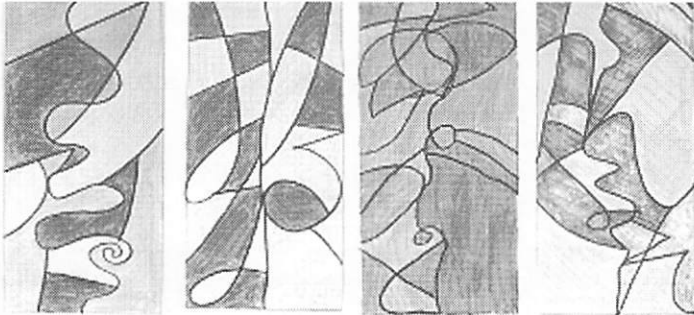
《鑑賞の能力》 自分の表現意図を説明して、他の作品のよさを感じることができる。

6 学習活動（全3時間）

(1) 用具・準備

- ① 材料 画用紙（10cm×20cmの枠をとり、10cmの辺の中心には点を打っておく。）
サインペン、ワークシート、色彩カード
- ② 道具 絵の具、筆、パレット、筆洗

(2) 展開

学習の流れ	学習活動	指導上の留意点
導入 (1時間)	<p>○ワークシートの記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉のもつ役割について考えてみる。 ・“ことば”の中から、励ます言葉、感謝する言葉、元気づける言葉、労る言葉など、人に伝えたい言葉を一つ選び、用紙の左上の欄に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ことばへの関心を高めさせる。 ・<u>相手の立場に立って</u>、自分が人に伝えたい言葉について考えさせる。 ・生活の中で、言葉によって自分が感じたことや、影響を受けたことなどにも着目させる。
展開 (1時間) 〈本時〉	<p>○線を描く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用紙を縦型に置き、上下に打たれた点同士を任意の一本線で結ぶ。 ・*一斉に線を描く →<u>思いを込めて10秒間で</u>  <p>(例 1-1) (例 2-1)</p> <p>○ことばを描く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用紙に、選んだ言葉一語を一文字ずつ縦に描いていく。 ・それぞれの文字の一面の始めと終わりが、辺上もしくは線上で接するように描く。  <p>(例 1-2) (例 2-2)</p> <p>○ことばに色をつける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ことばからイメージする色を三色選ぶ。 ・分割された面を、一面一色で塗り分ける。  <p>(例 1-3 ファイト) (例 2-3 負けるな) (例 3 ありがとう) (例 4 がんばれ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ことばへの思いを心でイメージすることを心がけさせる。 ・なかなか描き出せない生徒には、形にとらわれることなく、思いのままに手を動かしていくように促す。 ・実演して描画手順を示す。 ・本来の文字の形にとらわれてしまいがちだが、ここでは文字をそのまま描くのではなく、自分の思いを大切にして、自由に変形させアレンジして描かせる。 ・ことばへの<u>思いを大切に</u>しながら、自分がイメージする色を選択して、着色させる。 ・色相環や色の性質など、これまでに学習した内容を確認させて、配色を工夫させる。
まとめ (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した作品を鑑賞する。 ・ことばへの思いや表現意図を説明しながら、感想を述べ合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した作品を鑑賞させ、自分の思いを表現できたか、どのような印象を得られたかなどを振り返らせる。

V 誌上発表指導案

■誌上発表1

1 研究主題 歩く広告（モダンテクニックを使った手提げ紙袋デザイン）

2 提案者 墨田区立文花中学校 教諭 深見 響子

3 テーマと題材の関わり（題材設定の理由）

モダンテクニックと構成美の要素を学んだうえで、それぞれを必ず一つずつ以上用いて様々な商品の広告を手提げ紙袋にデザインする。始めに既製の商品のパッケージを生徒がまず鑑賞し、デザインの構成要素が消費者にどういったイメージを持たせようとしているのかを考えさせる。その後で生徒がどのようにすれば商品のイメージをより強調することができるかを新たな視点で考え、紙袋という形におきかえてデザインする。

パッケージが様々な色彩と形の組み合わせからできており、そこから生まれる視覚的効果は、日常生活において多くの人々に情報＝メッセージを伝えているということに気付かせる。そしてその要素を自分の作品に取り入れ、結果として分かりやすさと美しさを表現＝発信できる喜びを感じさせたい。

今回は情報量のある程度制限するために立体としての形は紙袋として統一し、平面上での形（構成美の要素を生かして）と色彩で考えさせることとした。また、描写を得意としない生徒にも一定の完成度につながるようにモダンテクニックを使用させることとした。毎年モダンテクニックはどの生徒も楽しく授業に臨んでいる。美術において楽しさも重要な要素であり、それが今後の彼らの学習への関心・意欲に影響していくと考える。

4 学習の目標

- (1) デザインを構成する要素が、情報を伝えるために重要な役割をもつことに気付く。
- (2) モダンテクニックの技法を学び、見る人の印象を考えながら制作に活かす。
- (3) 商品イメージにあわせて技法を工夫すると同時に形や色の効果を生かす。

5 評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
 - ① 伝える、使うなどの目的や機能を考えてパッケージに関心を持つことができる。
 - ② 積極的にモダンテクニックの技法等を学習し、その美術的効果を意欲的に制作へ試みることができる。
- (2) 発想や構想の能力
 - ① 構成美の要素とモダンテクニックの技法を理解し、目的や条件などを基に自分なりにイメージしたデザインにあわせて技法を用いることができる。
- (3) 創造的な技能
 - ① 学習したモダンテクニック技法を活用して、用具を適切に用いて紙袋に彩色することができる。
- (4) 鑑賞の能力
 - ① パッケージから色や形の情報を読み取ることができる。
 - ② 作品の鑑賞を通して表現の多様性を理解し、感じ取ることができる。

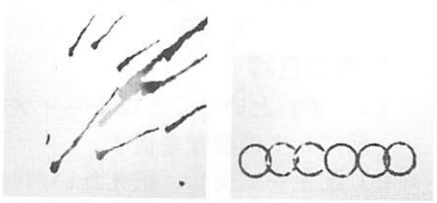
6 学習計画（全13時間）

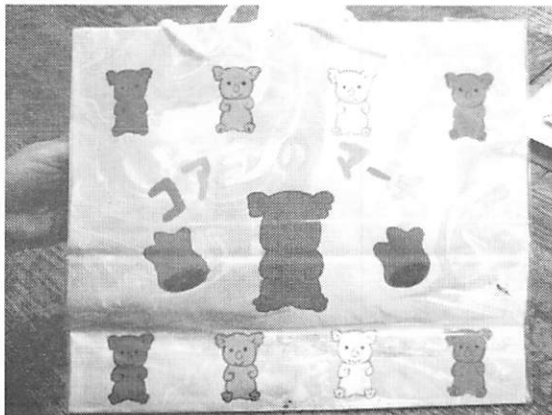
(1) 用具・準備

- ① 材料 手提げ用紙袋（白色） パッケージ 画用紙 厚紙 コラージュ用雑誌
- ② 道具 金網 ブラシ スタンピング用具 マーブリング彩液 バット
筆記用具 ポスターカラーセット のり はさみ
- ③ その他 参考作品 プロジェクタ ロールスクリーン 資料集「美術資料（秀学社）」
プリント（構成美の要素、下描き用、鑑賞用）

(2) 展開

次	時	学習活動	指導上の留意事項
一次	1	自分が持参したパッケージを鑑賞し、それが商品の広告としてどんな特徴と役割を果たしているかを考え理解する。 参考作品を見ながら、題材と作業手順の理解を深める。	パッケージの鑑賞を通して、色合いや文字、絵、形などからどんな印象を受けるかを考えるように指示する。それが商品を広告（宣伝）する上で重要な要素となっていることに気付かせる。 デザインの重要な要素となるモダンテクニックと構成美の要素を学び、それらを用いて手提げの紙袋をデザインする題材であることを説明する。

二次	1	プリントを用いて構成美の要素を学ぶ。(大きさの変化、重ね、シンメトリー、アクセント、リピーション) プリントに一つずつ実際に描いて練習する。	構成美の要素をそれぞれ解説し、生徒にはプリントに実際に描かせ練習・理解させる。記入後にプリントを回収し、生徒が理解しているかを最終確認する。
三次	2	『美術資料』を参考に見ながらモダンテクニックを学ぶ。(デカルコマニー、ドリッピング、スタンピング、スパッタリング、マーブリング、コラーージュ)	画用紙6枚すべてに氏名を記入させる。二つずつ説明しながら、生徒に実際にモダンテクニックを画用紙に練習させる。班ごとに用具を貸し出し、立ち歩きは原則させないようにする。 
四次	2	プリントに印刷された全員同じモダンテクニックに、そこから連想する言葉と絵を記入する。 (→拡大投影機で指導者が何名かを紹介) 前時まで練習したモダンテクニックを各自自由に選択し、そこから連想する言葉と絵を、直接記入する。(→拡大投影機でできるだけ全部のモダンテクニックを指導者が紹介)	モダンテクニックから連想する言葉と絵を考えさせることで、モダンテクニックを用いるとどのような効果があるのかに気付かせる。 (※2年生は1年生の時に5分間デッサンと同じ位置づけでアイデアスケッチを数回行っている。生徒にはそれと同じように考えて描くよう指示をする。) 各モダンテクニックの主だった効果を生徒の紙を拡大投影して全体で共有・確認する。
五次	3	前時の内容を活かして手提げ紙袋の広告デザインのアジアスケッチをプリントに描く。 制作の手順を考え、プリントに記入。	生徒が用意したパッケージの文字や写真等を材料に、モダンテクニックと構成美の要素を必ず一つずつ以上使って構成や装飾を考えて表現の構想を練る。
六次	5	紙袋への下描き、彩色。(モダンテクニック)	先に彩色(モダンテクニック)をした方がいい場合は下描きを後に行わせる。
七次	0.5	紙袋へのビニールかけ、紐通し。	カッターで内側と外側から紐の穴を開けさせる。刃物を扱うので安全面に注意させる。
八次	0.5	鑑賞(自己・他者評価)。使用したモダンテクニックと構成美の要素をどのような意図で用いたかをプリントに記入。友だちが作品を見てその意図を感じてもらえたかどうかを確認する。 制作のまとめ。	自分と友だちの作品を鑑賞し、さまざまな表現とその面白さを味わわせる。制作のふりかえりを行う。 自己の作品についてPRをしたり、友だちの作品について感想を発表し合い、作品の意図やさまざまな良さや美しさに気付かせる。 (言葉による発信)



■誌上発表2

1 研究主題 「夢」ということばからの発想 → マインドマップの作成

2 提案者 墨田区立向島中学校 教諭 奥井 伸

3 テーマと題材の関わり（題材設定の理由）

- ・マインドマップの特性を知った上で自らの発想や構想を「かたち」にする。
- ・テーマとなる「夢」のイメージをふくらませて独自のマインドマップを描く。

4 学習の目標

- (1) 「夢」ということばからイメージをふくらませる。自分の将来などを認識することで最終学年を前にしての自覚を促す。
- (2) 配色を工夫し、伝えたい内容についてわかりやすさや美しさを考えてデザインする。
- (3) できあがった作品のなかで自分の意図する思いや考えを他人に説明することができる。

5 評価の観点

- (1) テーマとなる「夢」からの発想をいかにしてふくらませられたか。
- (2) マインドマップに「かたち」を工夫できたか。
- (3) 配色豊かに仕上げられたか。
- (4) 自分の作品を客観的に見つけ、他人の作品の良さや美しさを感じ取ることができたか。

6 学習計画（全5時間）

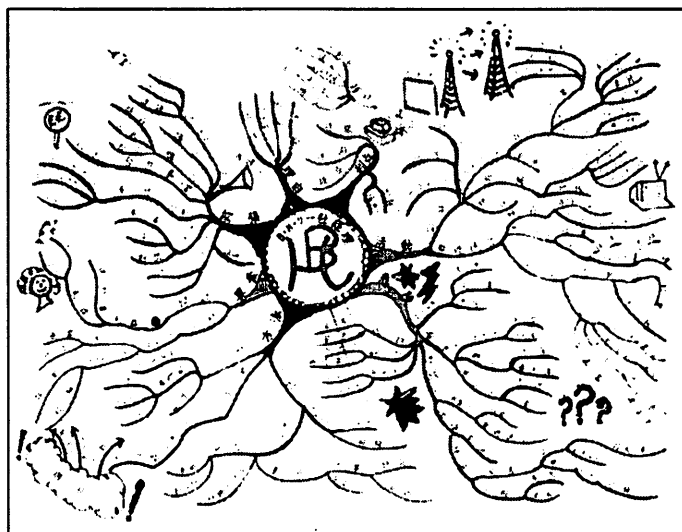
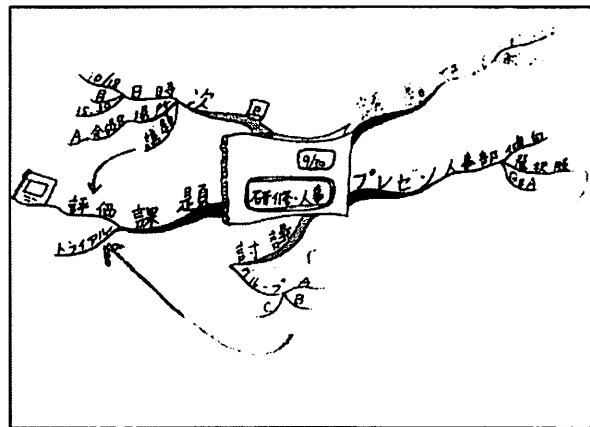
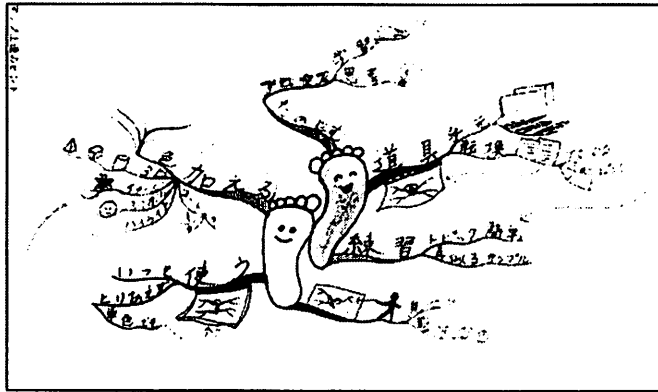
(1) 用具・準備

- ① 材料 画用紙
- ② 道具 ポスカ ペン 色鉛筆 マジック など
- ③ その他 プリント ワークシート

(2) 展開

時数	学習内容	学習活動	指導上の留意事項（評価の観点・視点）
1	・マインドマップとは何かを理解する。 ・実際の作例を見て、「自分ならどうするか？」とイメージをふくらませる。	・先生の話をよく聞く。	・マインドマップの表現について意欲をもつことができる。（関心・意欲・態度）
1	・キーワードの決定。 ・下描きを行う。	・大まかなキーワードを幹にし、それに想起される「ことば」やイメージを放射状（かたちは基本的に自由）に描き込んでいく。	・自分のイメージをかたちにするための準備ができる。（発想や構想の能力）
1	・キーワードとなる「ことば」やイラストを消書する。	・下描きの終わった者から消書に入る。	・配色を考えながら、自分のイメージをかたちにできる。（発想や構想の能力）
1	・配色を工夫し「マインドマップ」を完成させる。	・自分なりの「マインドマップ」を完成させる。	・イメージをかたちにしながらマインドマップを完成できる。（発想や構想の能力）
1	・クラスの中で発表者を募り自分の作品について発表させる。	・発表にあたった生徒は発表する。それ以外の生徒は発表者の説明を聞く。 ・他人の発表を見てどう感じたか、また、自分の作品にはどのような工夫があるのかワークシートに記入する。	・友だちの発言を聞いて自他の作品を客観的に評価できる。（鑑賞の能力）

・作例（あくまで例ということで「夢」という題材とは少しニュアンスが違います）



■誌上発表3

1 研究主題 色について話し合おう

2 提案者 江東区立深川第四中学校 教諭 坂東 由香里

3 テーマと題材の関わり（題材設定の理由）

新学習指導要領の美術科の改訂の一つに「鑑賞領域の改善」があげられる。中でも自分なりの意見や価値を作りだしていく学習を取り入れることを重視している。作品などに対する思いや考えを説明し合う学習を取り入れ、説明し批評しあうことで、コミュニケーション能力を高めていくことが求められている。1学年時にはさまざまな領域や教材への導入、取り組みを含めて多くのアプローチの方法が考えられる。今回は色の名前に着目し、色名の背景にある文化的なものにも目を向けさせ、色に対する関心を高めることをねらいとする。

4 学習の目標

- (1) 多くの色についての意見交換をしながら、色についての関心を高める。
- (2) 色に対するイメージをふくらませ、色彩を通じた作品制作への意欲を高める。

5 評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
 - ① 意欲的に学習に取り組む。
- (2) 発想や構想の能力
 - ① 色から多くの発想を作り出す。

6 学習計画（全4時間）

- (1) 用具・準備
 - ① 用具 画用紙 トーナルカラー ポスターカラー
 - ② その他 国旗の資料 サッカーユニフォーム
- (2) 展開

次	時	学習活動	指導上の留意点
一	1	導入 教科書 p 32・33 を見る。 「たくさん色がある」 「知っている色もある」 それぞれ知っている色名を発表する。 自分たちのポスターカラーを見てみる。 「読めない」 「聞いたことのない色名がある」 「何語だろう」 本時の展開 それぞれの色名の由来を推理する。 グループで話し合い、発表。 「バーントシェンナは英語で焼けた土」 「モーブ」は動物の名 …… 正解を知り日本と違うことを知る。	どんどんあてて生徒が知っている色の名を板書する。 和名、洋名どちらもよい。 色の名を黒板に示す。 英語とカタカナ両方を明記。 何人かあてて色の名の意味を考えさせる。 12色は多いので、バーントシェンナ、セルリアンブルー、モーブなど4色ほどに絞っておく。 正解を発表する。

次	時	学習活動	指導上の留意点
		<p>「同じような色なのにこんなにイメージするものが違うんだ」</p> <p>日本の色あわせについて理解する 「組み合わせで色のイメージをだすんだ」 「2色以上の組み合わせもあるのかな」</p> <p>同じような色でも国や文化が違っていると名前が違うことを理解する。 「季節や植物や肌の色が違っているからかも」</p> <p>次回は身近なものの色名を作って名前を付けてみよう。</p>	<p>和名の由来も発表する。</p> <p>単色だけでなく、組み合わせで色やものをイメージする「色合わせ」を紹介する。 掛け図を使う。</p> <p>色の名の由来にはその土地の文化や環境などが大いに関係することを説明 国旗やサッカーユニフォームで色のイメージが使われていることを見せる。</p> <p>次回の予告を告げ作品を見せてイメージさせる。</p>
二	2	<p>色名を考える。 配色カードで組み合わせを考える。 「校長先生っていう色作るぞ」 「私、loveにする」</p> <p>決まったらポスターカラーで画用紙に着色し2種制作。 意欲がある場合3種以上も可。</p>	<p>アイディアカードにメモを書かせる。 机間巡視してアドバイスする。 色の名はクイズにするので皆に言わないよう説明する。</p> <p>筆の使い方（面相と彩色） 筆洗バケツの使い方 パレットの使い方 水の量 を指導。</p> <p>次回、作品の色名あてをすることを予告。</p>
三	1	<p>机に並べてある番号順の作品を見て自分たちで「色名」を推理し、ワークシートに書き込む。</p> <p>正解を知る。 「〇〇さんのがぴったりだと思った」 「色の名がおもしろかった」</p> <p>まとめ 色について関心をもち、イメージすることの大切さを理解する。 ワークシートに感想を記入する。</p>	<p>班でまとめて置いておくよう指示。 裏は絶対に見ない（色名が書いてある）。 色名はあらかじめプリントしておき、空欄に番号を記入するクイズ方式。</p> <p>正解を発表する。 誰の制作した色名が一番しっくりきたと思ったか当てて聞いてみる。</p> <p>パッケージデザインやいろいろな生活用品に色のイメージが使われていることを説明する。</p>

■誌上発表4

1 研究主題 16色の平面構成 ～イメージする色を作る、塗る～

2 提案者 江東区立東陽中学校 教諭 鶴田 将志

3 テーマと題材の関わり（題材設定の理由）

昨年の夏にポスター制作を行ったが、自身がイメージする色を作ることや、はみ出さずむらなく着色することが困難な生徒が多く見られた。本題材における活動を通して配色や混色の仕方、色彩感覚、アクリル絵の具の使い方を学ぶことができると考え設定した。

4 学習の目標

- (1) 純色・明清色・暗清色・濁色の仕組みを理解し、それらの色を作る。
 - 混色ガイドを用いて、絵の具の混ぜる割合に気をつけて色を作る。
- (2) 枠の中に、はみ出さず、ムラなく塗る。
 - パレット上で絵の具をよく混ぜ、面相筆で輪郭をとり、平筆で中を塗るなど工夫する。
- (3) 言葉から色をイメージし、配色カードから16色を選び出す。
 - 春・夏・秋・冬・夕暮れ・太陽・空・湖・都会・田舎・友情などの言葉から一つを作品のテーマとして選ぶ。

5 評価の観点

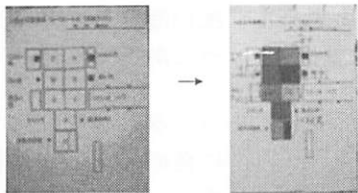
- (1) 関心・意欲・態度
 - ① 色の仕組みに関心を持ち、イメージする色を作り塗ることに意欲的に取り組む。
- (2) 発想や構想の能力
 - ① 言葉から色をイメージし、配色や構成を考えインパクトのある画面を作る。
- (3) 創造的な技能
 - ① 作品のテーマからイメージした色を作り、はみ出さずむらなく塗り味わい深い作品を作る。
- (4) 鑑賞の能力
 - ① 制作を通して色の面白さを感じ取り、自他の作品を鑑賞してよさや美しさを味わう。

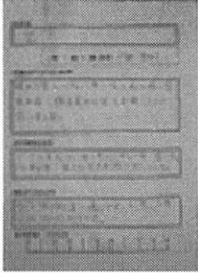
6 学習計画（全6時間）

(1) 用具・準備

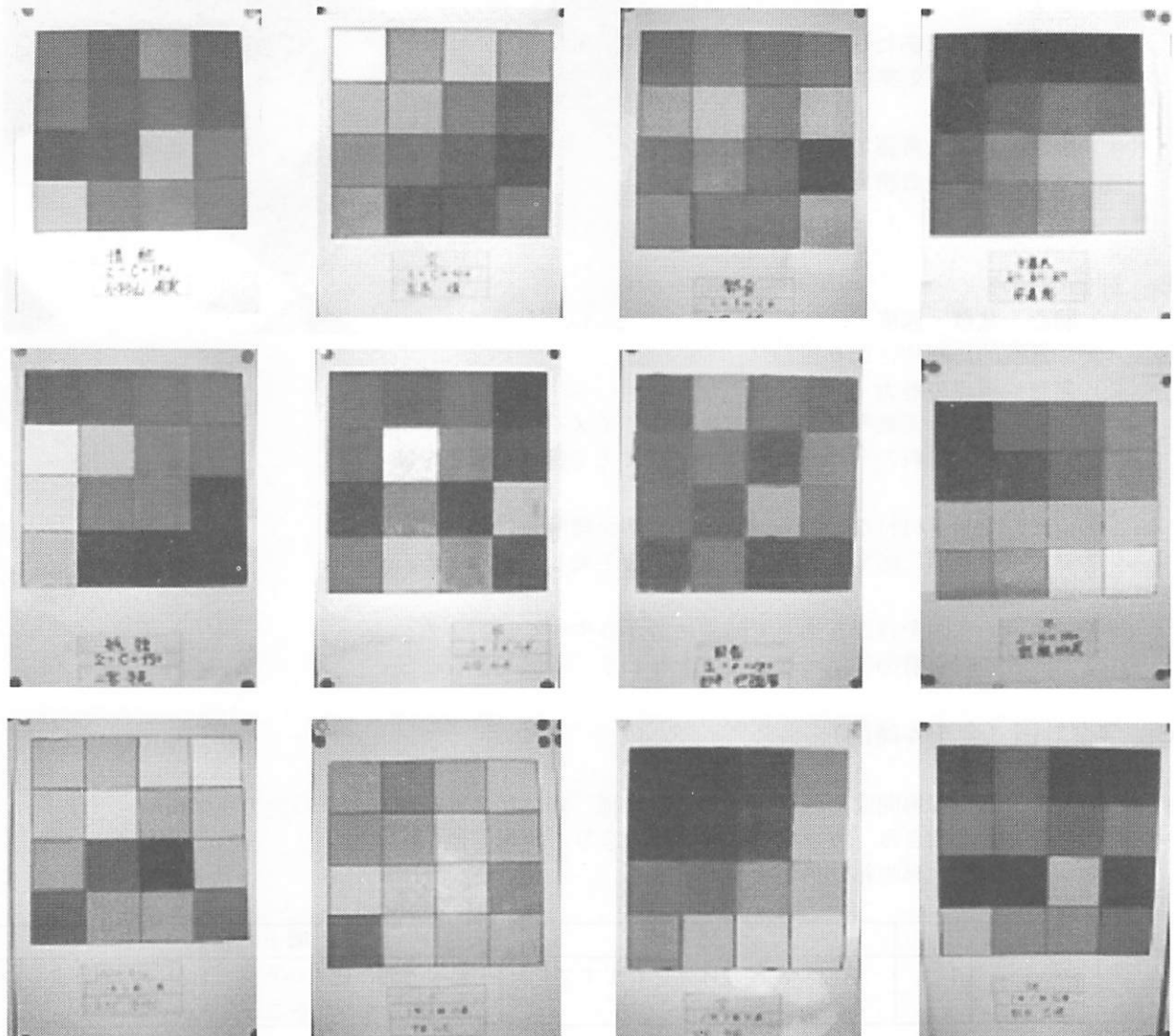
- ① 材料 A4画用紙
- ② 道具 アクリル絵の具 筆洗器 配色カード 混色ガイド
- ③ その他 電子黒板 ワークシート①・②

(2) 展開

次	時	学習活動	指導上の留意点
一	2	・混色ガイドや配色カードを用いてワークシート①に色を塗る。 	・電子黒板を使って純色、明清色、暗清色、濁色などの用語とその仕組みについて理解させる。 ・パレット上でよく絵の具を混ぜるように指導する。
二	1	・春・夏・秋・冬・夕暮れ・太陽・空・湖・都会・田舎・友情などの言葉の中からテーマを選び、そのテーマに沿って配色計画を立てる。 ・配色カードの中から、自分のイメージに近い色を16色選び出す。	・それぞれの言葉を暖色・寒色で分けてみるというシミュレーションを行い、生徒が言葉から色をイメージしやすくなるようにする。

次	時	学習活動	指導上の留意点
三	2	・配色計画にそって丁寧に着色していく。	・パレット上で絵の具をよく混ぜ、面相筆で輪郭をとり、平筆で中を塗るよう指導する。
まとめ	1	<ul style="list-style-type: none"> ・はみ出したところなどを修正し、タイトルと名前を書いて完成。 ・自分の作品についての説明や、制作を終えての感想などをワークシート②に書く。  <ul style="list-style-type: none"> ・自他の作品を鑑賞し、よさや美しさを味わう。 	・ワークシート②にはテーマについての説明や、よくできたところや、難しかったところについて具体的に文章で書くよう指導する。

〈作品例〉



■誌上発表5

1 研究主題 私の箱

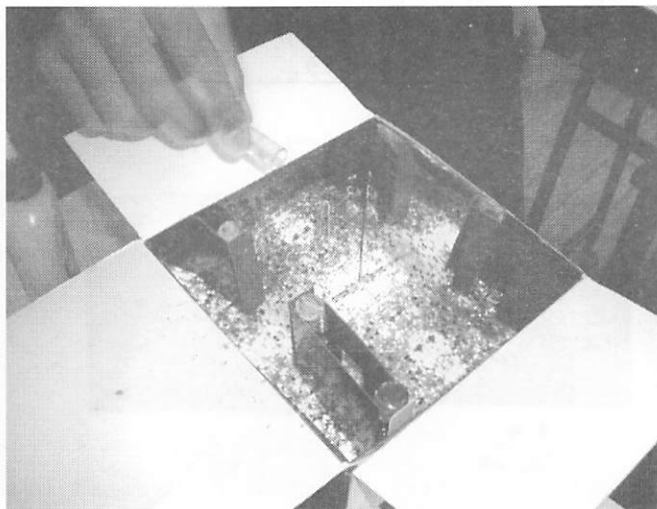
2 提案者 江東区立深川第一中学校 教諭 二階堂 洋子

3 テーマと題材の関わり（題材設定の理由）

自分をオブジェで表現するという事は、自我意識が高まる中学3年生は強い関心を抱く。「自分」とはどんなものかといわれて、一言で表現できる人はいない。それほど人間というのは多種多様で、心の中にたくさんのものを内包した総合的な物である。この総合的な存在を表現しようとするには言葉だけで表現することは難しく、むしろ色や形、素材からの感覚といったイメージ的な物を組み合わせの方が表現しやすい。また「この色は自分のこんな性格を表している」などのように、ことばで表現の意図を意識しながら制作に取り組むことになる。しかも制作の意図が上手く表現できているかどうかは、常に自分の中にある身体感覚で感じ取ることができるので、表現意図を追求するために能動的に色や形、素材を扱うことができる。

4 学習の目標

- (1) 「自分」を言葉や色・形に置き換えてイメージでとらえることができる。
- (2) 形や色彩、材料などの持つ印象や感情を理解し、構想に生かすことができる。
- (3) 表現の意図にあわせて材料や技法などを選択し、効果的に扱うことができる。
- (4) 表現の意図を言語で説明することができ、作者の表現意図に気付くことができる。



5 評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
 - ① 意欲的に制作に取り組む。
- (2) 発想や構想の能力
 - ① 表現対象を言葉や色・形に置き換えてイメージでとらえる。
 - ② 色や形、材料のもつ印象や感情を踏まえて豊かな構想を練る。
- (3) 表現の技能
 - ① 形や色彩、材料などのもつ印象や感情を理解し作品に生かす。
 - ② 表現の意図に応じて材料や技法などを工夫して制作する。
- (4) 鑑賞の能力
 - ① 表現の意図を言語を通じて他者に分かりやすく説明する。
 - ② 他者の表現意図に気づき、よさを味わう。

6 学習計画（全14時間）

(1) 用具・準備

- ① 材料 箱展開図形台紙 描画材料多種 素材類多種 糊 セロハンテープ類
- ② 道具 はさみ カッター ペンチ きり 定規 他
- ③ その他 「私の箱」構想プリント

(2) 展開

次	時	学習活動	指導上の留意点
一	1	・箱形の、自分自身を表すオブジェを作ることを知る。	・箱の外側は他人から見た自分、内側は自分の心の中を制作することを知らせる。

		<ul style="list-style-type: none"> ・構想プリントを使って、班で互いに「〇〇さんのイメージ」を言い合う。 ・他人から出されたイメージを基に自分なりに表現を工夫して箱の構想を練る。 ・構想をアイディアスケッチとして大まかに描く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他人から出された自分のイメージは、とりあえずは受け入れることを話し、班の発言を活性化させる。 ・ものの配置や向き、大きさなどでイメージが変わることに気付かせる。 <p>評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他人のイメージを積極的に発言できたか。 (意欲) ・配置や向き、大きさなどの表現を工夫して構想を練り、アイディアスケッチとして描くことができたか。 (構想)
二	8	<ul style="list-style-type: none"> ・「他人から見た自分」のイメージになるように、箱の外側を描く。 ・描画材料や描画方法を自分で選択してイメージに近づくように制作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉で表現された自分のイメージと、色や形のもつ印象が一致するように意識させる。 ・自分が表現したいイメージがはっきりしている生徒には、描画材料や描画方法のアドバイスを適宜与える。 <p>評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に制作に取り組むことができたか。 (意欲) ・表現したいイメージを明確にもつことができたか。 (構想) ・描画材料や描画方法を工夫して表現を深める制作ができたか。 (技能) ・色や形のもつ印象や感情を表現に効果的に利用することができたか。 (技能)
三	4	<ul style="list-style-type: none"> ・心の中の「感情や気持ち」をどんな材料を使ってどのように表そうか構想を練る。 ・材料や技法を自分で選択し、「自分の心の中」を箱の内側に制作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料から得られるイメージが自分の感情や気持ちを引き出す引き金になるように、多種多様な素材を自由に使えるように用意する。 ・表現方法にはなるべく制約を加えないようにする。 ・表現そのものが楽しくなってしまう生徒が多いので、適宜「これは何を表してるの?」と質問し、言語で自己の表現意図を確認させる。 <p>評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作を楽しんで取り組むことができたか。 (意欲) ・材料や表現方法を生かした構想を練ることができたか。 (構想)
まとめ	1	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の制作意図を作品解説に書く。 ・文化祭で作品解説とともにお互いの作品を鑑賞し合う。 ・他者の作品のよさや工夫など、感じ取ったことを感想として書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「どんな表現方法で」「どんなイメージ」を表現しようとしたのかを言葉で書かせる。 <p>評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他人に自分の表したいイメージが伝わるように制作することができたか。 (技能) ・自分の作品の表現意図を分かりやすく説明することができたか。 (鑑賞) ・作品のよさや美しさを豊かに感じ取ることができたか。 (鑑賞)

■誌上発表6

1 研究主題 曲線が奏でる優雅な形体

2 提案者 葛飾区立綾瀬中学校 教諭 尾花 賢一

3 テーマと題材の関わり（題材設定の理由）

(1) 題材について 対象学年 第2学年

- ・ 粘土を用いて抽象彫刻を制作する課題である。使用する素材は石粉粘土。柔らかくて加工しやすく、乾燥後に耐水ペーパーで研磨するとなめらかな手触りになるだけでなく石質感のある仕上がりになる。さらに乾燥速度も紙粘土と比べ遅く、制作途中でのひび割れが少ないなど利点が多い。油粘土や紙粘土からさらに一步踏み込んだ素材として選択した。
- ・ 今回の題材は抽象彫刻というものの、基本となる形にはある程度制約を設けた。500gの粘土で、厚さ5ミリの板を作り、それを基に自分が考える「美しいカーブ」を表現する課題である。幅も6cm、12cm、20cmと3種類の中から選択する。これならば造形表現に苦手意識を持つ生徒でも、元となる形が設定されているため、導入部分で強い抵抗感を持たずにスムーズに課題に対し意欲を高め集中して取り組むことができると考え設定した。さらに制約がある中でも、板の幅の長さや穴を開ける位置や数を自分で決定することができるため、表現方法にも多様性を持たせることができる。同じ制約の中で生徒それぞれが創意工夫し、多彩な形体を持った作品が生まれることを期待している。

(2) 生徒について

- ・ 2学年は今年度から初めて授業を担当する。昨年度の実践例を参考にすると絵画制作が多く、粘土を用いた制作は経験していない。そのため粘土を扱うことに抵抗を持つことが予想される。
- ・ それぞれ制作への意欲を持ち合わせているものの、積極的に取り組むことに抵抗感があるようで、授業に対して受け身になってしまうことが多い。しかし一度決めた作品イメージに対しては、たとえ難しい工程であっても完成という目標に向かって最後まで努力する力を持っている。
- ・ 技術不足から表現することへの不安感も強く、それが影響して他者と自分の作品を比較してしまい、自信喪失に繋がる事や、周囲の雰囲気流されてしまう傾向がある。

4 本題材での具体的な学びと学習活動

- ・ 本題材における具体的な学びと学習活動について次のように設定した。

学び方	題材における具体的な学び	学習活動
主題や発想を創出する力	「美しい形」というテーマに沿った多彩な作品を鑑賞し、自分の中でイメージを模索し、美意識を育む。	・ ハンス・アルプ、ブランクーシ、ナウム・ガボなどの抽象彫刻の作品をスライドとシートによって鑑賞する。
粘土の可塑性を活かして成形する基礎的技能	たたら板を使用しての成形。そして、そこからできた板を曲げる、折る、穴をあける、重ねる、束ねるなどの技法を用いて自分が意図する「美しい形」を表現していく。	・ 粘土を使って表現できる形体を写真と言葉で説明したシートを配る。また、事前に厚紙を用いて形体を作り、粘土に触れる前に完成イメージを確立させる。

5 題材の目標

- 完成イメージを具体的に持ち、目標に向けて制作することができる。
- 用具や設備を正しく扱うことができる。
- 粘土の特性に親しみながら、立体表現としてのよさや曲線がもつ美しさを表すことができる。
- 立体作品の多様な表現のよさや美しさを感じ取り、味わうことができる。

6 題材の評価基準と評価基準

	題材の評価基準	評価基準
関心・意欲・態度	・抽象彫刻に関心をもち、意欲的に表現技法を身につけようとし、それを生かして積極的に制作に取り組むことができる。	・さまざまな作家の作品を鑑賞することで、抽象彫刻がもつ美しさに触れる。そして、自分の作品に生かすためにシートを活用することができる。 ・制作の工程を理解し、設備・用具を正しく扱って取り組むことができる。
発想や構想の能力	・テーマをもとに、自ら表現したい形体についてよく考え、適した表現を用いて制作することができる。	・完成イメージを確立させるために厚紙を使って完成模型をつくり、粘土制作に反映することができる。
創造的な技能	・粘土の特徴を理解し、それらを生かしながら創意工夫し、表現活動を行うことができる。	・粘土がもつ可塑性を理解し、美しい作品を表現するために適した技法を組み合わせる表現することができる。 ・耐水ペーパーや粘土べらを用いて、なめらかで、きめ細やかな質感に仕上げることができる。
鑑賞の能力	・制作者の美意識、創造的な表現の工夫などを感じ取り、そのよさや美しさを味わうことができる。	・さまざまな作家の作品に興味をもち、素材の加工方法などに着目しながら、作品のよさや美しさを文章で表現することができる。 ・友達の作品を鑑賞し、さまざまな美意識や価値観を受容することができる。

7 指導計画（全7時間）

	主な学習内容	関	発	創	鑑
1	抽象彫刻の鑑賞 スライドとシートをもとに鑑賞する。	○			○
2	作品スケッチ 元となる板の幅を決め、技法を選択する。完成模型を制作する。	○	○		
3	粘土の成形① たたら板を用いて板を制作する。	○		○	
4	粘土の成形② 模型をもとに、板を成形する。	○	○	○	
5	粘土の研磨① 作品の表面をならし、道具をつかって滑らかな仕上げにする。	○		○	
6	粘土の研磨② 作品の表面をならし、道具をつかって滑らかな仕上げにする。	○		○	
7	作品の鑑賞 シートをもとに完成した作品を鑑賞する。	○			○

■誌上発表 7

1 研究主題 名画に親しむ「名画カルタ」

2 提案者 葛飾区立大道中学校 教諭 五月女 和代

3 テーマと題材の関わり（題材設定の理由）

クラス全員で一つの作品を鑑賞する授業の後に、各自が選んだ作品の良さを他に紹介する内容の学習を展開したいと考えた。一人ひとりがプレゼンテーションをするには時間がかかりすぎるので、カルタ取りゲームで名画の紹介をすることを計画した。選んだ名画を模写し、その作品の印象を簡潔な文章で表現する。これをカルタの取り札と読み札にしていく。自分の選んだ名画を、カルタ取りゲームを通して互いに他へ紹介させたい。

4 学習の目標

- (1) 模写することで作品の全体や部分を丁寧に見、形や色を考える。
- (2) 選んだ作品の作家や描かれた時代背景を調べることで、より深く作品を味わう。
- (3) 名画を選んだ時の印象に、模写や調べ学習を通して得た感想を加えて、作品の紹介文を考える。
- (4) 模写作品を取り札、紹介文を読み札としてカルタに仕上げる。

5 評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
 - ① 意欲的にワークシートや、制作に取り組む。
- (2) 創造的な技能
 - ① 形や色を正確に模写する。
- (3) 鑑賞の能力
 - ① 模写することから作家の表現方法のすばらしさに気付く。
 - ② 作品の特徴を簡潔な文章にまとめることができる。
 - ③ 他の名画の表現の違いとその良さに気付くことができる。

6 学習計画（全6時間）

(1) 用具・準備

- ① 材 料 複製やカラーコピー（ポストカード等） 画用紙 トレーシングペーパー 色画用紙
- ② 道 具 筆記用具 絵の具 筆ペン サインペン 接着剤 等
- ③ その他 ワークシート

(2) 展開

次	時	学習内容	指導上の留意点
一	0.5	①ワークシートを記入する。 ・題名 [画材/大きさcm] 制作年 ・作者名 [国籍・出生～没年] ・選んだ理由 a 題材（描かれている内容）で優れていると思った事 b 描き方（構図、色合い、画材等） c その他の理由	作品について調べたり、選んだ理由を確認させて模写する意欲をもたせる。

二	3	<p>①模写する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆で下描きする ・絵の具で着色する 	<p>構図がとらえづらい生徒にはトレーシングペーパーを使用させる。</p> <p>画材の種類で表現の違いがでることにも注意させ、アクリル絵の具や顔料を教師が準備しておく。</p>
三	1	<p>①ワークシートを記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名画の模写をして学ぶこと <ul style="list-style-type: none"> a 模写にかかった時間 b 作品を制作した作者の気持ち (なぜ、こう描いたのだろうか) ・作者や作品についてのエピソード <p>②作品の紹介を七五調で表現し、用紙に清書する。</p>	<p>模写後に作品を見直すことから、作家の気持ちまでを想像させたい。</p> <p>作品の特徴を簡潔な言葉にさせる。文中に作家名を入れさせる。</p>
四	1	<p>①模写作品は取り札用に、紹介文は読み札用に台紙を付ける。</p>	
まとめ	0.5	<p>①班でカルタ取りをする。</p>	<p>6～10人くらいでカルタ取りをし、他の作品を鑑賞し合う。</p>

■誌上発表8

1 研究主題 お菓子箱のパッケージデザイン（新商品の開発）

2 提案者 葛飾区立葛美中学校 教諭 田中 幸司

3 テーマと題材の関わり（題材設定の理由）

テーマの「メッセージ～色彩・形・ことばからの発信～」を受けて、デザインの分野の中でも、色彩・形・文字情報をストレートに伝える作品制作として、視覚伝達デザインを選択した。箱形のお菓子のパッケージは、生徒が普段見慣れている、身近な視覚伝達デザインのひとつといえる。箱の形（大きさ・開け口など）・色彩（中身のイメージ・ターゲットとする年齢層など）・文字情報（必ず記載されている情報・そのお菓子特有の情報）・キャラクター・キャッチコピーなど、そこには多くのデザイン上の工夫を見つけることができる。また、日々多くの新商品が生み出され、リアルタイムで参考資料を手に入れることができる。まずはそれらをよく観察し、どのお菓子のパッケージにも共通しているデザイン上の特徴（商品名がどの面にも表示されている・中身の写真があるなど）や、デザイン上大切な事柄を見つけること、そしてそれを念頭にオリジナルのデザインを考え、形にしていくことで、学習指導要領＜2内容A表現（2）デザイン・工芸＞「ア、デザインの効果を考え、形や色彩、図柄、材料、光などの構成を簡潔にしたり総合化したり、取り合わせを工夫するなどして、美しく心豊かなデザインをすること」を達成することができると考える。また、中身のお菓子そのものの形・素材・特徴などを一から全て自分で考え出すことで、「イ、使用する者の気持ちや機能、夢や想像などから独創的に発想し、造形的な美しさ、材料や用具の生かし方などを総合的に考え、創意工夫してつくること」に繋がると考え、この主題に取り組んだ。

4 学習の目標

（1）デザインの理解と計画的な制作

- ① 身近にあるデザインの観察を通して、デザインの持つ特性（機能と美）を理解し、制作に生かす。
- ② パッケージデザインとして、どのような中身を、どのような人たちに向けて、どのように伝えるのか、ねらいをもって構成・色彩のデザイン計画をすることができる。
- ③ 観察→デザイン計画→下描き→色彩計画→転写→着彩→組み立ての手順を、計画的に進める。

（2）制作上の創意工夫と丁寧な制作

- ① 材料・画材の特性を生かし、効果的に着彩や配色を行う。
- ② 完成まで丁寧な作業を心がけ、着彩・組み立てを行う。

（3）相互鑑賞の充実

- ① 完成作品を相互鑑賞し、デザインとしての作品の良さに気付く。

5 評価の観点

（1）関心・意欲・態度

題材に関心を持ち、主体的に制作に取り組んでいるか。＜授業観察・パッケージ観察表＞

（2）発想や構想の能力

商品を一から考え出し、ねらいを持ってそのパッケージをデザインしているか。デザインの持つ特性を理解したうえで、内容を工夫しているか。＜デザイン計画・下描き・作品＞

（3）創造的な技能

最後まで丁寧に作品を完成させているか。材料・画材の特性を生かし、効果的に着彩・配色・組み立てを行っているか。＜下描き・作品＞

（4）鑑賞の能力

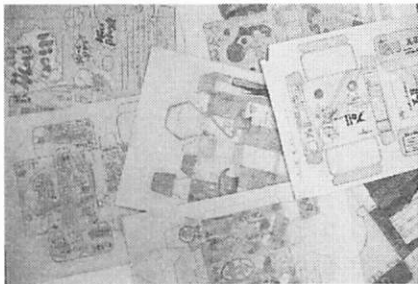
完成作品を相互鑑賞し、デザインとしての作品の良さに気付いたか。＜鑑賞シート＞

6 学習計画（全12時間）

（1）用具・準備

- ① 材料 ケント紙
- ② 道具 色鉛筆 セロハンテープ アクリル絵の具 グロスメディウム はさみ 両面テープ
- ③ その他 お菓子の箱（形が異なる4～5種類）を展開したサンプル ワークシート（2種類のサンプル・パッケージ観察表 デザイン計画 下書き用展開図4種類）

(2) 展開

次	時	学習活動	指導上の留意点
一	①	導入 主題に説明・デザインの観察(2種類のサンプルを比較し、観察表を記入する。)	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインをするということを意識させる。 ・パッケージとして共通している要素と、その商品独自の要素を発見し、視覚伝達デザインとしてのパッケージに必要な要素を理解させる。 ・宿題 (さまざまなパッケージの観察)
二	②	デザイン計画 商品名・箱のタイプ・	<ul style="list-style-type: none"> ・中身を先に考えさせることで、取りかかりやすい。また中身のお菓子をPRするために、どのようなパッケージにすると良いか、また、ターゲットとする年齢層などを詳しく考えさせ、ねらいをはっきりさせる。
	③	中身の詳細・必ず記載する情報・その他キャラクターなどのデザインを計画する。	
三	④	下描き・色彩計画・転写	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまなサンプルを提示し、同じ箱の形でもデザインの向きや位置等に違いがあることを確認する。 ・オリジナリティーがありながら、デザインとして必要な条件を満たすというところに、良いデザインとしての価値を見いだせるよう支援する。 ・転写の時、鉛筆で裏を黒く塗りすぎないように指示する。(汚れ防止)
	⑦	4種類の展開図(コア型・コロ型・トッポ型・フラン型)を用意し、自分の選んだタイプの箱の下描き用紙に下描きを行い、色鉛筆で色彩計画を行う。→ケント紙に転写	
			
四	⑧	着彩 (⑧~⑩)	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養成分表や原材料表など、細かい部分はペンなど画材を工夫して行うよう指示する。 ・アクリル絵の具の特性(発色性が良い・速乾性・耐水性など)を生かした表現の工夫を促す。
	⑩	アクリル絵の具で着彩。着彩終了後、グロスメディウムを表面に塗る。	
			
五	⑫	組み立て・鑑賞 展開図に沿ってはさみで切り取り、両面テープで組み立てる。→相互鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・展開図が絵の具で隠れてしまった場合、サンプルをあてて、展開図を書き直させる。 ・相互鑑賞を通して、さまざまなデザイン上の工夫を見つけられるよう、ワークシートを工夫する。
			

■誌上発表 9

1 研究主題 不思議な立体をつくろう！ ～二つのメッセージ～

2 提案者 葛飾区立立石中学校 主幹教諭 太田 幸司

3 テーマと題材の関わり（題材設定の理由）

2種類の違った意味をもつ色や形を錯視の効果を利用し、一つの立体作品の中に同時に表現することで、作品のもつテーマをより浮き彫りにし、ユーモアのある、楽しい作品をつくりあげた。色や形の持つメッセージをより象徴的に、より直感的に訴えることで、ことばを超えた、インタラクティブな作品になると考えた。

4 学習の目標

- (1) 平面作品ではできない、立体造形ならではのしくみを使って、新たな表現方法を学ぶ。
 - ① 立体作品の、あらゆる角度からの視点を生かした表現を学ぶ。
 - ② 彫刻の基礎を学ぶ。
- (2) 一つのテーマを異なる色と形で表現することで、より印象的な作品づくりをする。
 - ① テーマを多角的な視点で捉えることができるようになる。
 - ② ユーモアのある親しみやすい表現を楽しむ。
 - ③ 色と形によるコミュニケーション能力を高める。
- (3) 錯視図形のしくみを学ぶことで、表現の幅を広げる。

5 評価の観点

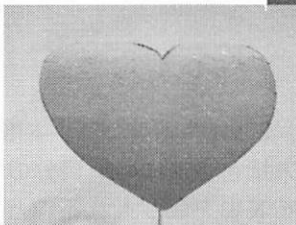
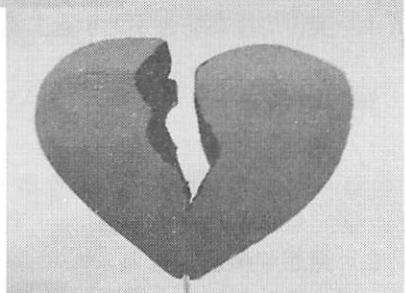
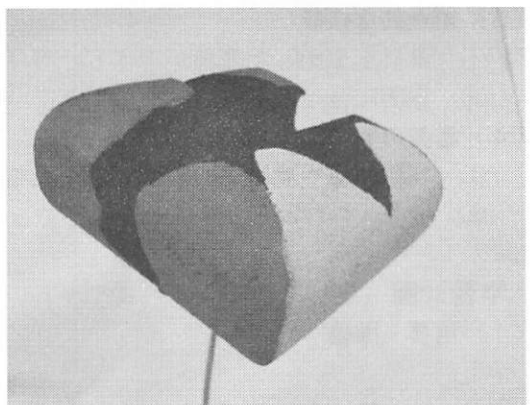
- (1) 関心・意欲・態度
 - 身近な錯視図形に興味をもち、意欲的に制作に取り組む。
- (2) 発想や構想の能力
 - ① 柔軟に発想し、複数のイメージから形と色彩をつくりだすことができる。
 - ② 色と形によるビジュアルコミュニケーションができる。
 - ③ 立体作品のもつ視覚の特性を生かした作品をつくることができる。
- (3) 創造的な技能
 - ① 彫刻の基本的な技法を利用して作品をつくることができる。
 - ② イメージに合った配色をし、効果的に仕上げることができる。
 - ③ イメージに合った造形表現を、効果的に利用することができる。
- (4) 鑑賞の能力
 - 相互に鑑賞しあうことで、より深い興味と関心をもち、互いの思いを伝えることができる。

6 学習計画（全6時間）

- (1) 用具・準備
 - ① 材 料 スタyroフォーム アクリル絵の具 ジェッソ 厚紙 針金 台座 紙ねんど
 - ② 道 具 スチロールカッター 紙ヤスリ カッター はさみ へら 筆 等
 - ③ その他 視聴覚機材 プロジェクタ テレビモニター 等

(2) 展開

次	時	学習活動	指導上の留意点
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ●錯視図形の鑑賞をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・地と図の関係 ・不可能な立体図形 ●今回の制作のねらいと目標を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●錯視図形の面白さで興味関心を引くと共に、地と図の関係や、隠し絵など、二つ以上の要素が、表現に幅を持たせる手だての一つであることを理解させる。面白さだけをねらうのではなく、印象的な表現方法の手段として捉えさせる。 ●今回のねらいは、印象的なイメージの伝達であることを強調し、何を伝えるのかをよく吟味し、アイデアを大切にさせる。

二	1	<ul style="list-style-type: none"> ●わくわくシートを利用して、発想を広げる。 ●アイデアスケッチをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●一人ブレインストーミングをワークシートを利用して行い、より柔軟な発想を引き出す。 ●アイデアが重要であることを強調し、何度もアイデアスケッチをさせる。
三	1	<ul style="list-style-type: none"> ●型紙をつくる。 ●スタイロフォームにAの型紙を貼る。 ●スタイロフォームを型紙に沿って、スチロールカッターで丁寧に切りとる。 ●切りとった破片を組み合わせ、もとの立方体に近い形に戻す。 ●違う方向から見た面に、Bの型紙を貼る。 ●型紙に沿って、スチロールカッターで切りとる。 ●全ての破片を取り除き、立体を取り出す。 ●紙ヤスリを使って、形を整形する。 ●形が欠けたりしたところは、紙粘土で補修する。 ●全体をジェッソで塗装する。 ●十分に乾かし、塗装する。 ●ニスを塗って仕上げる。 ●台座をつくり、ネームプレートを入れる。 ●針金でスタンドをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●スチロールカッターを使ってキレイに切りとるためには、型紙が正確に出来ないとならない。丁寧さを求める。 ●安全指導を十分に行い、やけどやケガをしないように、道具の使い方を指導する。 <p><正面></p>  <p><側面></p>  <p><斜めから見ると・・・></p>  <p>作例 題名「人の想い」 ・人の想いは、いつも喜びと悲しみが一緒になっていることを表した。</p>
まとめ	1	<ul style="list-style-type: none"> ●作品カードをつくる。 ●自分の作品を発表する。友だちの作品を鑑賞する。 ●鑑賞カードに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分の作品に題名をつけ、表現の意図や工夫を記入することで、制作をふり返る。 ●片面だけ見せて、何を表現したいか、ゲーム形式で発表をさせる。視聴覚機材を利用する。 ●友だちの作品を鑑賞し、感じたことをまとめることで、より多様な表現方法を学び、自分の表現活動に生かせるようにする。

■誌上発表10

1 研究主題 伝える形・文字・言葉

2 提案者 江戸川区立葛西第二中学校 教諭 大平 真作

3 テーマと題材の関わり（題材設定の理由）

造形の基礎基本は、模倣から始まっている。何を模倣するのか、その対象を選ぶのは、その人そのものとも言える。それはその人の感性であり、それまでの経験の多寡であり、様々な要素がある中での選択となる。その模倣を出発点とした造形の中に、自分自身のメッセージを明確なものとする文字・ことばが加えられる。形だけで自分自身の思いが成立するか、文字・ことばを必要とするのか。作品として見る人に伝えるものをどう表現していくのか。形だけでなくことばの重みを考えさせる。

4 学習の目標

- (1) 水張りパネルを使って制作することで、本格的なしっかりした作品を作ろうという意欲を持たせる。
- (2) 題材・素材・表現方法を自由にし、自分の世界の表現の仕方を十分工夫する。
- (3) 文字・ことばによる表現を取り入れることで、作品への思いを強くする。
- (4) 美術の授業を苦手とする生徒にも、自由な発想、工夫によって様々な表現が出来ることを学ばせる。

5 評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
 - ① ワークシートへの取り組みから丁寧に行っている。
 - ② 意欲的な制作態度。
- (2) 発想や構想の能力
 - ① 自分の思いを表現できている。
 - ② 苦手なものを克服する工夫をしている。
- (3) 創造的な技能
 - ① 素材を生かした表現ができている。
 - ② 意図に合った表現の工夫ができている。
- (4) 鑑賞の能力
 - ① 制作の中で美しいものを求めている。
 - ② 他の人の作品の良さを見つけることができる。

6 学習計画（全10時間）

(1) 用具・準備

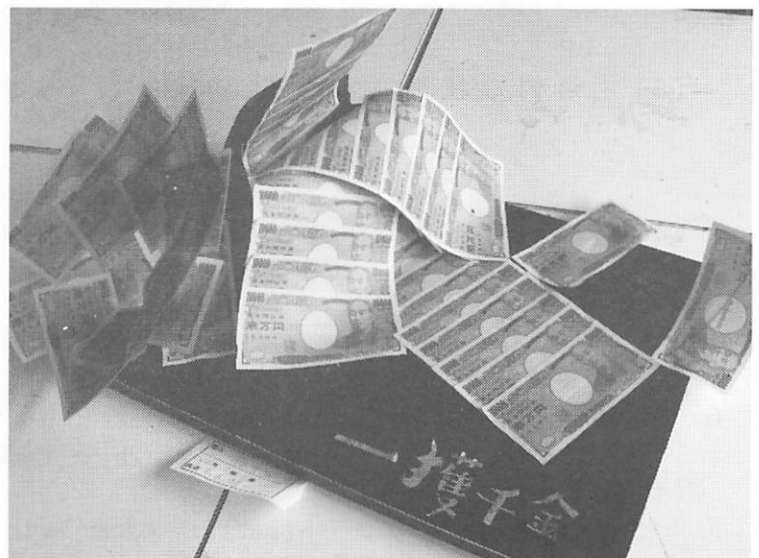
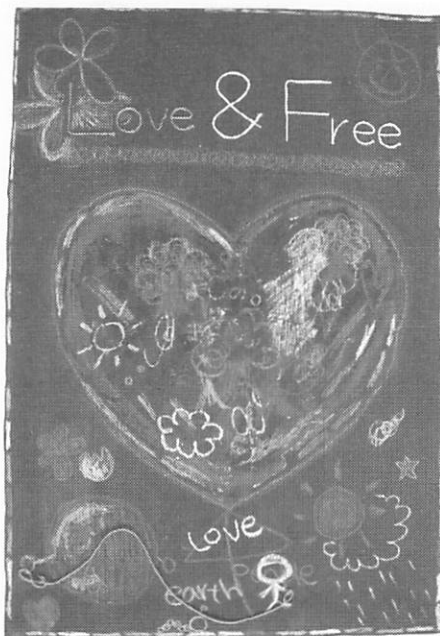
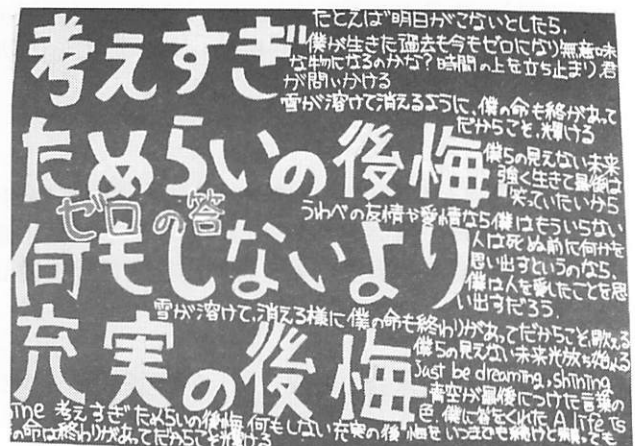
- ① 材料 水張りパネル制作（B3版パネル、ケント紙、水張りテープ） 水彩絵の具 紙粘土 色紙 折り紙 色鉛筆 など
- ② 道具 （水張りパネル）はけ ステープラ はさみ のり など

(2) 展開

次	時	学習活動	指導上の留意点
一	1	水張りパネル作り 自分自身の作品のパネルを作る。 二人で組になって助け合う。 制作する作品への思いを募らせる。	作業の進まない生徒には手助けする。 本格的な作品作りの導入とする。

二	2	ワークシートを使って構想を練る。 資料を集める。 下書きを始める。	自分の思いを確かめさせる。
三	6	制作活動 さまざまに工夫をして、自分のイメージを表現する。	生徒の考えを中心におき、素材の扱いなど工夫については、アドバイスを適時していく。
四	1	クラスのみんなの作品を鑑賞する。	他の作品の良いところを探す。 何をメッセージとしているのかを読み取る。

生徒作品



■誌上発表 1 1

1 研究主題 『かたちをデザインする指導方法の工夫』

2 提案者 江戸川区立瑞江中学校 教諭 畠山 敦

3 テーマと題材との関わり

(1) 題材名 「マイ・ボード」 (領域：プロダクト・デザイン)

(2) 題材設定の理由

自分でデザインしたコルク・ボード(掲示板)を、工芸作品として制作し大切に使ってほしいと考えた。螺鈿漆技法という伝統的な技法を用いて制作し、デザインの工夫として、【透かし模様】を必ず取り入れることを課題とした。「研ぎ出し」によって螺鈿模様が浮き出てくる作業自体も魅力であるが、更に【透かし模様】をデザインの要件として提示することによって、「かたち」について様々なアイデアを工夫する要因にもなる。

プロダクト・デザインでは、商品のデザインが重要で、これによって購買者の購入意欲が左右される。「マイ・ボード」のデザインが商品として優れたものになるには、機能性はもちろんだが、素材の特長を生かしたものにすることが大切である。螺鈿漆の持つ「素朴な風合い」や「仕上がりの美しさ」を、「透かし模様」のデザインに効果的に生かすことにより個性的な自分だけの掲示板が生まれる楽しさを感じてほしい。

4 学習目標

- (1) 【透かし模様】や螺鈿漆工芸の技法を理解し、デザインに生かす。
- (2) 道具の使い方を工夫し、効率的な作業手順を考え計画的に取り組む。
- (3) 安全で丁寧な作業を行い、後片付けに対しても率先して取り組む。

5 評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
 - ① 制作意図を「かたち」にするためのデザイン的な工夫を様々な試すことができる姿勢。
 - ② 作業手順に合わせて、道具を適切に使用し安全に取り組むことができる態度と、きちんと後片付けを行おうとする真面目な態度。
- (2) 発想や構想の能力
 - ① 「透かし模様」の手法を理解し、独創的な「かたち」にデザインを高めることができる柔軟な発想力・態度。
 - ② 螺鈿(らでん)漆工芸の技法を用いて効果的な装飾を施し、商品としての付加価値を高められるような工夫ができる力。
- (3) 創造的な技能
 - ① 作業工程に沿って、必要な工具を効率的に活用し、デザインした通りに正確に「かたち」を作ることのできる技術力。
 - ② 「研ぎ出し」の作業をこつこつと丁寧に行い、螺鈿の図案を正確に浮き上がらせ、最後までしっかりと仕上げ作業に集中できる力。
- (4) 鑑賞の能力
 - ① デザイン性や仕上げの丁寧さに関して、率直に感想をまとめることのできる力。
 - ② プロダクトデザインとしての様々な条件を念頭に置いて、生活の中の美等の環境作りについて考察できる力。

6 学習計画(全19時間)：[アイデア1h]→[設計1h]→[転写、穴あけ1h]→[切断・加工5h]→[素地づくり(塗装)2h]→[螺鈿貼付3h]→[塗装・研ぎ出し・組立・仕上げ6h]

(1) 用具・準備

- ① 材料 コルク・シート[2mm厚] シナ合板[9mm厚] シナベニヤ[3mm厚] …すべてB4サイズ
螺鈿 工芸うるし 木工ボンド 瞬間接着剤 ウレタンニス
- ② 道具 電動糸のこ盤 電動帯のこ盤 ベルトサンダー 電動ドリル
紙やすり[#80、#240] 耐水性ペーパー[#1000] 金工やすり[平、半丸]
- ③ その他 カーボン紙 トレーシングペーパー 方眼紙[B4]

(2) 展開

学習段階	時数	主な学習活動	指導上の留意点
導入 (準備) 課題把握 ↓ 発想・構想	1 1	○課題・条件を理解し、掲示板のアイデア・デザインをスケッチブックにいくつも描く。 ○デザインが決まったら、材料と同じサイズの方眼紙に設計していく。	○「透かし模様」の作例を見せて、機能性とデザインの結びつきを考えさせる。また、螺鈿装飾との関連についても触れて、作業の流れを理解させる。【制作を見通す力】 ○漆塗装部分(主に黒色)とコルク部分のバランスを検討させる。[透かし部分、額縁のプロポーションを考えさせる。]
展開 (制作) 加工 ↓ 塗装 ↓ 加飾 ↓ 研ぎ出し	1 6 1 1 1 1 1 1 1	○コルクシートが見える部分を合板に転写し、切り抜き作業の準備をする。 *電動ドリルの扱い方を知る。 ○電動糸のこ盤で、切り抜き作業をする。 *糸のこ盤で曲線を切断する要領を理解する。  ○漆塗装の下準備をする。 *ウレタンニス塗装→黒色の漆塗装  ○うるしを塗装後、(二度目の塗装が乾いてから)耐水性ペーパーで素地を整えるために磨く。 ○螺鈿を図案に沿って接着する。 [鉛筆で下書きを行う。] ○螺鈿を図案通りに貼り終えたら、全面に漆を塗る。 ○【研ぎ出し】の作業を行う。	○電動工具等の取り扱い方、作業の注意点を整理して、安全に作業を行うように注意を促す。 ○土台用のシナベニヤとコルクシートは、あらかじめ木工ボンドでむら無く接着し準備させる。  ○デザインによって、漆の他の色を組み合わせる方法についても言及し、マスキングテープの使用手法や塗装手順を適宜アドバイスする。 *ウレタンニスを初めに塗ることによって、漆の吸い込みを無くし塗料のノリが良くなる。  ○耐水性ペーパーを使う作業の際、水入れと新聞紙を用意させ、新聞紙の上で素地磨きや研ぎ出しの作業をするように指示を出す。  
まとめ (完成) 鑑賞・評価	1 1 1	○コルクボード[土台用のシナベニヤとコルクシートを貼り合わせたもの]と漆塗装を施した額部分の合板を接着する。 ○ボードの側面の仕上げ塗装を行う。 ○友だちの作品を含め、取り組みの反省と作品の出来の感想をまとめる。	○「マイ・ボード」の側面を仕上げ塗装し、耐水性ペーパーで塗面を整えた後、ウレタンニスを塗って完成。 ○いくつかの作品を取り上げて、評価する。

■誌上発表 1 2

1 研究主題 名画の空間を視る（名画のペーパーレリーフ）

2 提案者 江戸川区立小岩第一中学校 教諭 矢野 芳幸

3 テーマと題材の関わり（題材設定の理由）

形の認識、奥行きや空間の想像力は「ことば」と同じように、共通理解できていると考えられているが、実際には歴史や文化の違いにより、いろいろな理解のレベルがある。

絵画作品をレリーフ状に分解して、奥行きを再現するように再構成する作業は、一枚の平面の絵に奥行きを感じるよう強制する。ペーパーレリーフに奥行きを感じることは当然だが、この作業をすることではじめに見ていた平面の作品がさらに奥行きの感じられるものに見えてくる。

ロダンが、「奥行きで見る」ことの必要をくり返し強調したように、造形の知覚において奥行きの感性は想像力の重要な要素であり、絵画表現のイリュージョンを理解する前に、だれもが共通にもっている感性である。量感やバランス、プロポーシオン、構成的な空間の理解なども、この共通感覚の上に磨かれるものとする。

4 学習の目標

(1) 西洋や東洋の絵画表現の違いに、遠近法や奥行きのちがいがあがる。

・絵画空間の知覚について、西洋では三次元の空間認識を再現する方向で発達して来たのに対し、日本では、平面的・装飾的・象徴的——ときには前近代的であるとまで言われて来た。たしかにイタリア・ルネサンスに代表されるように、パースペクティブ（透視図法）の完成にしのぎを削った時代があり、キアロスクーロ（明暗法）、 sfumato、バルール（色価）など西洋では独自の歴史をもっており、空間知覚に関する感性としてデッサンやスケッチに多大な影響をおよぼしてきた。しかし、遠近法や立体感、奥行きの感性は西洋の独占ではない。

(2) 奥行きの感性が、知識理解にとどまるものでなく、立体視の知覚であることを体験する。

・ステレオ写真など3Dの体験実験。フォトモ。だまし絵（トロンプルイユ）。

(3) 実際の制作では、同一の複製画を4～5枚印刷したものを使いペーパーレリーフにする。

・今回ペーパーレリーフと呼んだものは、シャドーボックスとかデコパージュと呼ぶほうが一般的のようだ。インターネットの検索では、後者の名称で検索するといろいろな技法の実際を知ることができる。

5 評価の観点

(1) 関心・意欲・態度

① 名画など絵画作品に親しんでおり、意欲的に制作する態度がみられる。

(2) 発想や構想の能力

① 平面作品から具体的な立体空間を構想して、立体に再構成する手順を考えられる。

(3) 創造的な技能

① 複製作品を立体の重なりで解釈してカッターで切り抜き、空間の関係を考えながら厚紙を間にに入れて奥行きを強調する（限られた枚数の材料を工夫して奥行きを作り出す）。

(4) 鑑賞の能力

① 作品を見て表現の違いや工夫に気がつくことで、自分の好きな作品をより深く鑑賞する。

6 学習計画（全6時間）

(1) 用具・準備

① 材料 名画の複製（鑑賞資料のページから作品を選んだ。）

② 道具 カッターナイフ カッターマット 間紙用の厚紙（段ボール紙 スチレンボード）
木工ボンド 定規

③ その他 美術資料集 教科書 ピンセット つまようじ（細かい作業にあると便利）
例示説明用にプロジェクタやパソコン

(2) 展開

次	時	学習活動	指導上の留意点
一	1	資料集の鑑賞のページを見ながら、西洋の美術と日本の美術の違いについて感想を求める。	<ul style="list-style-type: none"> 資料集の前半が技法、後半が鑑賞。鑑賞の前半が西洋の美術、後半が日本の美術となっている。 教科書では「日本絵画の造形美」「日本の美術と世界」「北斎と遠近法」(日文、美術2・3上、p. 32~39)なども利用できる。いずれも深く追究できる問題を含んでいるが、生徒があげた特徴との関連でいろいろと使える。
二	1	<p>ペーパーレリーフの技法の説明</p> <p>資料集の鑑賞の頁から自分の好きな作品を選ぶ。</p>	
三	3	<p>作品が決まったら複製をよく見て、奥行きに注意する。(漠然と視るのではなく、中に何が描かれているのか探させるのもよい。文章化して叙述させると効果的。)</p> <p>複製画は4~5枚、1枚は切らないで台紙となるから、実質は3~4枚をパーツに切り分ける。</p> <p>間にはさむ厚紙は、空き箱をこわした厚紙・段ボールで十分。スチレンボードは軽くて切りやすく厚みも出しやすい。(形は表から見えなければどのように貼ってもよい)</p> <p>細かい作業なので、カッターナイフの安全に気をつける。</p> <p>ボンドをきれいに付けるために、つまようじ、ピンセットなどを使うとよい。</p>	<p>参考作品の他に、制作の手順をパワーポイントやスライドに取り込んでおくと理解しやすい。(上図は作業の道具と途中の様子。)</p> <p>「近景・中景・遠景」を見分けさせる。カッターで切り抜くことも考慮して塊でつかむ。(難しいようなら、白黒コピーの上にカッターナイフで切る線を鉛筆で描かせてみる。)</p> <p>下図は、資料集の一頁。作品が3点含まれる。</p>
まとめ	1	<p>出来上がりは資料集の名画を時代の流れのもとに一望できるような展示にする予定。</p> <p>(できたものを順次貼っていき、みんなで空想の美術館を楽しむ)</p>	

■誌上発表 13

1 研究主題 色・形態のもつ象徴的概念を自画像にもりこむ

2 提案者 江戸川区立小岩第五中学校 教諭 鳥居 カヨ子

3 テーマと題材の関わり（題材設定の理由）

形体や色のもつ一般的な象徴的意味を知ることによって、これらの絵画的な言語を駆使し、表したい内容に自分なりの意味を込めることが可能になる。

ここでは、自画像を描く作業の中で自己を見つめる際の「刺激語」として作用させることをねらった。自分を表すには何色がふさわしいのか、意味を強めるための形態や背景はどういうものにしたらよいかと悩みながら、最終的に「自分とは何か」と考えるというところまで迫りたい。子供の発達段階と進路指導とも絡めて、実施時期としては2年の後半から3年の1学期ごろに行い、「心を育てる美術科」として子供の成長に関わっているよう配慮した。

自画像を描く時鏡を見て描きとるというのにはかなりの抵抗がある。鏡を見ている姿を他人から見られたくない。また、横向きや半身、全身を描くには大きな鏡や二枚合わせを用いなければならない。そこで、昨今学校に整備されてきたデジタルカメラとコンピュータの画像処理を使って自画像の下絵まで完了することを試みた。自分の写真を納得いくポーズや構図で何回も撮り直しすることが可能なのがデジカメの利点である。その後さまざまな画像処理を施す。色の階調を変えたり、コントラストを引いてみたりコンピュータ処理した表現を自由に制作させる。絵画に苦手意識を持つ生徒も喜々として構想力を駆使する。何といっても自分の姿だから大切にしたいという思いでパソコン室が盛り上がるのが楽しい。構想さえ固まればこの勢いで画用紙に引っ張っていくことが可能である。画材は紙にのる物の中で画材のもつ効果を考えて自由に選ばせる。

作品制作後は絵画で表現しきれなかったところを言語で補完するという趣旨で「表したかった自分」という題で文を書かせると作品と生徒の思いへの理解が深まり、評価にも繋げられる。中にはきちんと自分と向き合い作品に表現できる生徒もいる。そして「作品は思いどおりにいかなかったが、自分についてじっくり考えることができた。」と言う子にとっても、この自画像は大切な作品になりえていて、このことが美術科として子供の心を育てていると言えるのではないだろうか。

4 学習の目標

- (1) 造形表現の言語としての色や形態のもつ象徴的な意味について知り、表したい自分にふさわしい主調色やモチーフ、背景（風景）を構想をする。
- (2) デジタルカメラと描画ソフトの使い方を知り、色調、タッチなどの効果をコンピュータで試行錯誤し自画像の下絵にする。
- (3) 下絵をもとに適切な画材を選び作品を完成させる。
- (4) 「作品解題」（解説）を書き、表現の意図と自己についてどこまで考えたか、表したい自分にどれだけ迫れたか、を検証する。

5 評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
 - ① 客観的に判定できる作品に込められたエネルギーの量＝作品の密度。
 - ② 「作品解題」に書きだされた表現への意欲。
- (2) 発想や構想の能力
 - ① 作品の色づかい、モチーフの扱い、構成により表したい自分を表現できているか。
 - ② 「作品解題」に示された表現の意図が効果的に使われているか。
- (3) 創造的な技能
 - ① 学習した色、形態のもつ意味を理解して作品に応用することができたか。
 - ② 描画ソフトを思いどおりに使えたか。
 - ③ 主題に応じた適切な画材を選び、表現することができたか。

6 学習計画（全10時間）

(1) 用具・準備

- ① 材料 画用紙
- ② 道具 水彩絵の具 ポスターカラー パステル 色鉛筆 デジタルカメラ5～6台
- ③ その他 パソコン（一人1台） 簡単な描画ソフト（又はフォレストタッチ） プリンタ 掲示板 プロジェクタ スクリーン 参考作品（自画像、構想画）

(2) 展開

次	時	学習活動	指導上の留意点
一	1	自画像作品の鑑賞。 色のもつ象徴的な意味について概略を知る。 形態のもつ象徴的な意味について考える。	感想をたくさん言わせる。 生徒の知らなそうなものも解説を入れると良い。 例：ゴッホと黄色など。 意味をもたせることができそうなものを生徒と一緒に考えさせながら挙げる。
二	8	自分のどのような面について表そうとするか考える。 主調色はどれがふさわしいか、主題を強めるための背景やモチーフを書き出し、自分のポーズ、表情、画面構成について考える。 デジタルカメラで撮影する。 画像をパソコンに取り込んで加工する方法を学習し、効果を確認しながらさまざまに試み、下絵としてプリントする。 画用紙に主題に合わせた画材で描き進める。	言葉で書き出す。(単語) 言葉で書き出す。(単語) アイディアスケッチに入る。アイディアスケッチの枠線は四つくらい用意し、消さずに次の枠内に描かせて思考の経過を残すようにすると良い。(関心・意欲・態度) アイディアはこの段階でも変更可とする。いろいろ試すうちにより良いものになる。 下絵を見ながら描画材料を検討する。
まとめ	1	解題を書く。	自分の表現したいことについてその意図やうまくいったこと、いかなかったことも含めて解説する文を書く。400字程度書かせると伝わってくるので、1時間は確保したい。作品を見るとき資料になる。 (関心・意欲・態度)(発想や構想の能力)



資料1 色からの連想

(出典 日本色研「色彩 カラーコーディネーター入門」)

白	潔白、清楚、清潔、衛生	黄緑	希望、平和、青春、明快	藍色	深遠、沈静、希望
黒	暗黒、悲哀、厳肅、死	緑	平和、希望、安全、新鮮	青紫	高貴、気品
赤	情熱、強烈、革命、危険	青緑	沈静、深遠、厳肅	紫	高貴、優雅
ピンク	温情、幸福、愛、女性的	水色	冷静、爽快、清涼、清浄	うす紫	明快、温情、女性的
橙	温情、陽気、快活、嫉妬	暗青緑	神秘、理想、深遠	紫	高貴、優雅
黄	平和、光明、明快、活発	青	希望、悠久、清澄	赤紫	熱烈、優美

資料2 シンボリックなモチーフ

- ・身体の一部 目、手、口、耳、牙
- ・気象 晴れ、雨、雷、風、虹
- ・風景(地形) 森、林、海、山、空、滝、都会、田舎、道、橋
- ・火、水、光、闇
- ・人工物 時計、砂時計、鎖、船
- ・動物 海の生物、昆虫
- ・植物 花、実、穀物、樹木

まだまだ沢山ありそうです

VI あとがき

太古の昔、人々が用いたコミュニケーション手段は、洞窟に描く絵やものを叩く響きでした。それが、文字や言葉に変化し、一方では美術や音楽に変わっていったことは言うまでもありません。「人はパンのみに生きるにあらず」。これはキリストの言葉ですが、芸術というものが心豊かな感性を養い、幸せな生活や社会を営むためになくってはならないものであることが、この言葉からも想像できます。我々美術教師は長年にわたり美術教育の重要性を訴え、働きかけてきました。国際化が進む中で日本文化や美術文化の重要性が再認識され、文化芸術振興基本法をはじめ、さまざまな法の整備も進められている昨今ですが、美術文化は尊重されながらも美術教育に対する理解は未だに深まっていないのが現状です。時間数の削減に始まり、教科に関わる調査においても重要度の認識が低いという結果が出ています。

そのような状況の中で我々美術教師は、子どもたちに伝えるべきものは何なのかを改めて考えることで、題材や指導方法を再考する発想の転換期にきていると思われれます。時間数削減により、一時代前のような授業展開は困難になりました。机に大きな画用紙を広げて、じっくりと対象と向き合う時間も生み出せない状況にあります。限られた時間や環境の中で、基礎・基本を習得させると共に、美術の楽しさや美術を愛好する心情を育てていくために、授業をどう進め、何をどう教えるべきかを見極めることが美術教師に求められています。

本研究大会では、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、美術教師が目指す目標を再認識するため、メッセージ「～色彩・形・ことばからの発信～」をテーマに研究に取り組んで参りました。中学校美術教育の原点を振り返ると共に、教師に、そして子どもたちに美術指導を通して新たなメッセージを伝えるという意味も込めて主題に迫って参りました。大会にご参加頂いた多くの方々と共に考え、さらなる実践を深めることが豊かな感性を育み、将来に向けて新たな美術文化を築くことができる子どもたちを育てることにつながると確信しています。本研究大会の成果を、是非、各地区に情報として持ち帰り、実践の一助にして頂ければ嬉しく思います。

終わりになりましたが、東京都教育委員会、葛飾区、墨田区、江東区、江戸川区の各教育委員会、東京都中学校長会、東京都中学校教育研究会、葛飾区中学校長会並びに葛飾区教育研究会の方々には、ご支援ご理解、ご指導を頂き誠に有り難うございました。心より感謝申し上げます。さらに、会場を提供して頂きました葛飾区立上平井中学校の教職員の皆様、関係の皆様のご苦勞に重ねてお礼申し上げます。

そして、ご指導・ご講演を頂きました東京藝術大学名誉教授 歌田眞介先生には、お忙しい中を本研究大会のために貴重なお話とご示唆を頂きましたこと、感謝申し上げます。

これからの中学校美術教育の発展を願い、「第27回東京都中学校美術教育研究大会・葛飾大会」を各方面で支え励まし、ご指導頂いた方々に心からお礼申し上げ、結びのあいさついたします。

大会副実行委員長 菊田 寛（墨田区立吾嬬第二中学校）

Ⅶ 大会運営組織一覽

大会会長 都中美事務局長	西東京市立ひばりが丘中学校校長 中野区立中野第三中学校	大野 雅生 吉田 諭司
大会実行委員長 大会副実行委員長	葛飾区立上平井中学校校長 墨田区立吾嬬第二中学校校長 江東区立東陽中学校校長 江戸川区立松江第一中学校校長 江戸川区立小松川第二中学校副校長	殿村 靖廣 菊田 寛 鹿田 薫 宇田川 功 茜谷 佳世子
実行委員会事務局長 次長	葛飾区立桜道中学校 墨田区立本所中学校 江東区立深川第四中学校 葛飾区立新小岩中学校 江戸川区立小岩第一中学校	伊藤 範彦 丸山 正晃 坂東 由香里 原田 史 矢野 芳幸
局員	墨田区立鐘淵中学校 江東区立深川第一中学校 江東区立深川第二中学校 江東区立深川第三中学校 葛飾区立東金町中学校 葛飾区立双葉中学校 葛飾区立堀切中学校 江戸川区立小岩第二中学校 江戸川区立小岩第三中学校 江戸川区立小岩第四中学校 江戸川区立上一色中学校	西村 加奈子 二階堂 洋子 河原 徹三 伊藤 未知子 早乙女 恵子 高鹿 裕子 高田 哲哉 前田 千賀 飯川 壽行 市川 美和子 山場 有三
実行委員会研究局長 次長	葛飾区立立石中学校 墨田区立両国中学校 江東区立深川第五中学校 江戸川区立松江第一中学校	太田 幸司 清水 隆一 大出 和広 岡田 卓也
局員	墨田区立吾嬬第二中学校 墨田区立向島中学校 江東区立第二南砂中学校 江東区立辰巳中学校 江東区立東陽中学校 江東区立亀戸中学校 葛飾区立中川中学校 葛飾区立新宿中学校 葛飾区立金町中学校 葛飾区立小松中学校 江戸川区立小岩第五中学校 江戸川区立小松川第一中学校 江戸川区立小松川第二中学校 江戸川区立小松川第三中学校 江戸川区立松江第二中学校	北原 順子 奥井 伸 楠本 玲子 福田 涉 鶴田 将志 長尾 菊絵 岩本 さつき 小林 砂織 佐藤 そよ子 高島 ひろみ 鳥居 カヨ子 藤原 よしみ 木村 創 佐藤 静恵 清塚 里衣子

実行委員会研究局員	江戸川区立松江第三中学校	刈田 麻美子
	江戸川区立松江第四中学校	安田 宣幸
	江戸川区立松江第五中学校	篠塚 はるみ
	江戸川区立松江第六中学校	高橋 紫織
実行委員会編集局長	江東区立深川第六中学校	大谷 知治
	墨田区立錦糸中学校	辻 順子
局員	葛飾区立本田中学校	関根 好高
	江戸川区立瑞江中学校	嶋山 敦
	墨田区立文花中学校	深見 響子
	江東区立第三亀戸中学校	小川 永祐
	江東区立大島中学校	武田 綾野
	江東区立大島西中学校	木内 英介
	葛飾区立水元中学校	平野 郁夫
	葛飾区立青戸中学校	一森 正博
	葛飾区立奥戸中学校	原 芳久
	葛飾区立綾瀬中学校	尾花 賢一
	江戸川区立瑞江第二中学校	相澤 貴子
	江戸川区立瑞江第三中学校	秦 行夫
	江戸川区立春江中学校	佐々木 健二
	江戸川区立鹿本中学校	江川 雄一
	江戸川区立篠崎中学校	横山 智
	江戸川区立篠崎第二中学校	田村 希世美
	実行委員会庶務局長	葛飾区立高砂中学校
墨田区立寺島中学校		丸山 貴志
局員	江東区立深川第八中学校	石井 元
	江戸川区立葛西第二中学校	大平 真作
	墨田区立堅川中学校	林口 正伺
	墨田区立文花中学校	信田 明美
	墨田区立吾嬬第一中学校	畑 眞由美
	江東区立第二砂町中学校	國井 雅之
	江東区立第三砂町中学校	栗田 愛
	葛飾区立青葉中学校	足立 政一
	葛飾区立常盤中学校	中村 千嘉代
	葛飾区立大道中学校	五月女 和代
	葛飾区立葛美中学校	田中 幸司
	葛飾区立亀有中学校	久保田 常子
	江戸川区立二之江中学校	佐藤 容子
	江戸川区立葛西第三中学校	斎藤 牧
	江戸川区立南葛西第二中学校	柴崎 啓一郎
	江戸川区立西葛西中学校	前田 いく子
	江戸川区立清新第一中学校	高木 裕之
	江戸川区立葛西中学校	小林 幹男
	江戸川区立南葛西中学校	藤井 伸雄
江戸川区立西葛西中学校	佐々木 美緒	
江戸川区立東葛西中学校	馬場 結子	

Ⅷ 都中美研究大会開催地一覧

回 開催日	大会名・開催地 会場	大会主題 大会副主題
第1回 S58.11.18	品川区 品川総合教育会館	「感動を持って創り出す力を高める美術教育」
第2回 S59.11.20	府中市 府中市立教育センター	「未来を拓く人づくりをめざす美術教育」
第3回 S60.11.27/28	豊島区 関プロ大会と合同大会 豊島区立千川中学校	「素材と創造者たち」
第4回 S61.10.9	中野区 中野区立第七中学校	「創作意欲をおこさせ表現力をたかめる授業の進め方」
第5回 S62.10.9	立川市 立川市立第九中学校	「崩壊か、低迷か、創造か」
第6回 S63.11.25	新宿区 都図研と合同大会 新宿区立西戸山中学校・同早稲田小学校	「想像の大地をめざして」 —伸びる・ふれあう・美術の根—
第7回 H元.10.20	北区 北区立神谷中学校	「やる気見つけた！」 —みずからの生き方につながる造形活動をめざして—
第8回 H2.11.22	新宿区 神楽坂エミール	「感動が人を創る」 —自らをたがやす生徒の育成をめざす美術教育—
第9回 H3.10.22	第5ブロック 荒川大会 荒川区立南千住第二中学校	「創るよろこび、生きるよろこび」 —今なぜ美術教育か—
第10回 H4.10.20	第6ブロック 江戸川大会 江戸川区立小松川第二中学校	「感性が輝くとき」 —今、創造の意味を考える—
第11回 H5.11.18	第7ブロック 八王子大会 八王子市立浅川中学校	「主体的表現と個性の輝きをもとめて」 —心の教育と21世紀へ向けての美術教育—
第12回 H6.10.4	本部大会 東京国立近代美術館・神楽坂エミール	「新たな美術教育の展開を求めて」 —美術館との連携と鑑賞教育の可能性—
第13回 H7.11.14	第8・9・10ブロック 北多摩大会 武蔵野市立第六中学校	「きらめく感性 あふれる創造」 —子どもが伸びる授業づくりをめざして—
第14回 H8.10.4	第1ブロック 大田区全造連・関プロ大会と合同大会 大田区民センター	「美術と環境 — 心の軌跡」
第15回 H10.1.22	第2ブロック 世田谷大会 世田谷美術館	「根幹と広がり」 美術を好きになるには —立体表現を通して—
第16回 H11.1.28	第3ブロック 練馬大会 練馬区立豊玉第二中学校	「現在、美術は増殖する」 —学校から地域へ生涯へ—
第17回 H11.11.19	第11ブロック 西多摩大会 西多摩郡日の出町立大久野中学校	「地域から発想」 —自然・伝統・生活を見つめて—
第18回 H12.11.16	第4ブロック 板橋大会 板橋区立加賀中学校	「美術の時間は発見ワールド」 —21世紀の美術は感性を呼び覚ます—
第19回 H13.11.22	第5ブロック 足立大会 足立区立第十四中学校・西新井ギャラクシティー	「豊かな感性が21世紀を創る」 —人権・共生・環境教育の原点としての美術—
第20回 H14.11.21	第6ブロック 墨田大会 墨田区立墨田中学校	「美術・生命の泉」 —わき出す想像、広がる創造—
第21回 H15.11.28	第7ブロック 八王子全造連・関プロ大会と合同大会 八王子市立長房中学校	「創ることは生きること」 —人間・さらなる成長をめざして—
第22回 H16.11.5	第1ブロック 品川大会 品川区立富士見台中学校	「観る 鑑る 未来る」 —転換期における美術教育—
第23回 H17.11.18	第2ブロック 新宿大会 新宿区立落合第二中学校	「創造は生徒を変える」
第24回 H18.11.17	第3ブロック 中野大会 中野区立中野富士見中学校	「みんなの美術」 —感動と創造は未来を拓く—
第25回 H19.11.8/9	第4ブロック 文京大会 47回関東甲信越地区造形教育研究大会 東京大会	人間形成としての造形美術教育 —新しい教育課程にどう対応するか—
第26回 H21.1.16	第8・9・10ブロック 北多摩大会(府中大会) 府中市立浅間中学校・府中市美術館	「人間力をはぐくむ美術教育〜いま、求められる創造性〜」 —豊かな「かかわり」を生み出す美術の授業—
第27回 H21.11.13	第6ブロック 葛飾大会 葛飾区立上平井中学校	メッセージ ～色・形・ことば からの発信～

— メモ —

